

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会第80回定例会・会議録

日 時 平成22年2月3日（水）

場 所 柏崎市産業文化会館 3F大ホール

出席委員 浅賀、天野、新野、池田、伊比、鬼山、上村、川口、久我、佐藤、
三宮、関口、高橋（武）、高橋（優）、武本、中沢、前田、牧、三井田、
吉野委員
以上20名

欠席委員 高橋（義）、萩野、宮島委員
以上 3名

その他出席者 原子力安全・保安院 黒木審議官 熊谷施設検査班長
柏崎刈羽原子力保安検査官事務所 竹本所長 大嶋副所長 嶋崎検査官
資源エネルギー庁 杉本原子力発電立地対策・広報室長
瀬崎課長補佐
資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当官事務所 七部所長
新潟県 飯沼防災局長 山田原子力安全対策課長 渋谷課長補佐
柏崎市 会田市長 須田危機管理監 駒野防災・原子力課課長
名塚課長代理 阿部主任
刈羽村 品田村長 武本総務課長 山崎主査
東京電力（株）高橋所長 長野副所長 西田技術担当
穴原品質・安全部長 森地域共生総括GM
宮武地域共生総括G 杉山地域共生総括G
（本店）武藤常務取締役 原子力・立地本部副本部長
伊藤原子力・立地業務部長
ライター 吉川
柏崎原子力広報センター 永井事務局長 石黒主事
柴野（弘）柴野（征）

◎事務局

それでは少し定刻前でございますけれども、最初に注意事項についてお知らせをしておきます。

携帯電話につきましては、スイッチをオフまたはマナーモードをお願いをしたいと思います。それから傍聴席で録音機使用の場合は、自席でお願いいたします。録音チャンネル4グループ以外をご使用いただきたいと思います。それから委員とオブザーバーの皆様方をお願いしますが、マイクのスイッチをオン、オフをお願いいたします。発言の際、一呼吸おいていただいて発言をお願いできればというふうに思います。

それから資料の配付の部分でございますが、お手元に本日出席者の座席表をお届けしてございます。次に、当地域の会の委員の質問・意見等ということで、その用紙が1枚いってございます。それから原子力安全・保安院から、前回定例会以降の動きについてでございます。同じく保安院から、IAEA国際耐震安全センターのワークショップの開催についてという資料がございます。次に、資源エネルギー庁からの資料でございます。全国エネルギーキャラバン「考えよう！ニッポンのエネルギーのことin新潟」ということで、2月26日に朱鷺メッセで開催されますけれども、このものに参加される方が委員の中でおられましたら、2月20日までに事務局までご連絡をいただければというふうに思いますので、よろしくをお願いいたします。同じく資源エネルギー庁から柏崎の原酒造さんが掲載されております、全日空の機内誌「翼の王国」という資料が届けられていると思います。それから新潟県から、前回定例会以降の動きという資料もでございます。次に、東京電力から同じく前回定例会以降の動きという資料がございます。最後に同じく東京電力から各号機の最近の状況についてという資料がございます。

資料の確認については以上でございますが、それで定例会に入ります前に、本地域の会の副会長の選任についてご協議をお願いしたいと思います。昨年末に副会長の渡辺丈夫氏をご逝去されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

副会長の席は空席のままにはしておけませんので、残任期間の副会長の選任をお願いしたいと思います。会則第8条に正副会長は委員の互選となっております。いかがいたしましょうか。

◎川口委員

運営委員の川口です。1月20日の運営委員会でこのことについて運営委員で話し合った結果、佐藤正幸さんが一番副会長として最適任ではないかということで、運営委員会としては佐藤さんを推薦したいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎事務局

佐藤正幸さんにとご提案がございましたが、いかがでしょうか。

それでは拍手をもってご承認いただければと思います。

(拍手)

◎事務局

ただいま佐藤さんから来年の4月末までの残任期間、副会長に就任していただくことに決定をいたしました。

それでは佐藤さん、一言ごあいさつをいただければと思います。

◎佐藤委員

今ほど副会長に選任をいただきました佐藤です。実は、こういうことは青天のへきれきだと思っています。というのは、1月20日の運営委員会は私は実は欠席をいたしまして、そこで推薦をいただいたということは、実は欠席裁判だったんですけれども、渡辺さんの後、あと1年ということで、何か聞くところによると年の順だというような話もあったようでありまして、私もそんな年になったのかなというふうにつくづく思いました。

地域の会はその名前のおり、柏崎刈羽原発の透明性を確保する地域の会ということですので、その趣旨、その目標に向かってみんなでもって活動していくという、そういうことを念頭に頑張っていきたいし、皆さんと一緒にやっていきたいというふうに思いますので、よろしく願います。

◎事務局

佐藤さん、前のほうにお移りいただけますでしょうか。

続きまして、ただいま佐藤さん、副会長の就任となりましたので、その空きとなりました運営委員の補充につきましては、会則第9条第2項によりまして、運営委員は会長が指名するとなっております。新野会長から新しい運営委員をご指名いただきたいと思います。お願いいたします。

◎新野議長

会長指名ということですが、同じく1月20日に私も皆さんと一緒に運営委員の中で若干の協議をさせていただきました。西山から出られていました渡辺さんのご意志を継ぐということも若干考慮に入れさせていただきました。牧さんにぜひお受けいただきたいと思います。西山の代表委員である牧さん、よろしく願いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

◎新野議長

ありがとうございます。では同じく残任なのですが、来年の4月末までの任期ということでよろしく願います。

◎事務局

ただいまご了承いただきました牧さん、一言ごあいさつをお願いできればと思います。

◎牧委員

西山の私の友達だった渡辺が昨年亡くなりました。そのかわりにおまえやれというような話みたいなので、お受けすることにいたしましたので、ひとつよろしく願います。

◎事務局

ありがとうございます。委員の補充でございますが、先の運営委員会でも検討していただきましたけれど、西山地域の委員さんが欠員となりましたので、会則第2条第5項によりまして、市のほうから西山地域の方をご推薦いただきたいと思いますということでお願いをしていきたいと思いますが、ご賛意いただけますでしょうか。

(拍手)

◎事務局

ありがとうございます。それでは市のほうに推薦をお願いしていく手続をしたいと思っています。

ただいまから定例会を開催いたしますが、次の前回からの動きを30分ぐらいでまとめていただきまして、ゲストの皆さんからは後ほど正面のほうに移っていただく若干の時間をいただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは新野会長さん、進行のほう、よろしくお願いいたします。

◎新野議長

では、とても切りのいい数字ですが、第80回の定例会を開かせていただきます。同時に情報共有会議ということですので、若干今日は委員の皆さん、ご自分の意思を委員同士がわかるというよりは、オブザーバーの方にぜひお届けするようなおつもりでこの発言を3分間にまとめていただければと思います。コミュニケーションのキャッチボールで私どもだけがわかっていても仕方がないので、ふだん顔を合わせないオブザーバーの方とか、傍聴席にいらっしゃる方にも思いがきちんと伝わるような配慮をいただければと思います。よろしくお願いいたします。では座らせていただきます。

では、定例なんですけど、前回からの動きということで、保安院さんのほうからご報告いただきます。

◎竹本所長（柏崎刈羽原子力保安検査官事務所）

ごめんください。原子力安全・保安院、柏崎刈羽保安検査官事務所の所長の竹本です。早速ですが、前回以降の原子力安全・保安院の動きについて説明します。

まず、1ポツ、柏崎刈羽原子力発電所6号機につきまして、定期検査の終了についてということですが、保安院は中越沖地震後、6号機に対して設備健全性の評価、耐震安全性評価並びに定期検査等を実施してきました。保安院は設備健全性評価とか耐震安全性は確保されており、継続かつ安定的に運転する上で問題ないと判断しまして、1月19日定期検査の最終項目の総合付加性能検査、総合付加性能検査は前回でもご説明しましたが、紙の下のほうに1ポツとありますが、定期検査の最終項目で、定格出力のもとでプラントの運転された状態において、全部で210項目程度ある各種運転パラメータを連続4時間計測し、安定的に運転されていることを確認する検査なのです。これを実施した結果、すべての検査が終了したと認められたことから、東京電力に対して定期検査終了証を交付しました。関係する紙として3ページ目をつけていますので、ご興味がありましたら読んでいただければと思います。

その次、(2)の特別な保全計画の届出ということで、1月15日に地震後の運転ということにかんがみて通常より多くの運転パラメータを監視することや、点検を強化することなどを記載された「特別な保全計画」というのが東京電力から保安院に届け出されております。この保全計画の内容について、今後、保安院では確認を行っていきまるとともに、本計画に基づく保全活動が適確に実施されていることを保安検査等により厳格に確認していきます。

続きまして2ポツ目です。東京電力の原子力発電所における放射性廃棄物処理系配管の誤接続ということ。前々回、前回、既にご説明しておりますが、この件につきまして2月2日、柏崎刈羽原子力発電所を含む東京電力のすべての原子力発電所に関する調査結果が保安院に提出されております。以前にもご説明しておりますが、柏崎刈羽の

発電所につきましては、1号機で3カ所、5号機で1カ所の誤接続がありました。この東京電力の2月2日の報告書を保安院で精査しましたところ、誤接続があったところ、30件ありましたが、それに対して技術基準の不適合は30カ所、保安規定の不適合が18カ所あることが判明しました。詳しくは6ページに内訳が書いてありますのでご覧ください。

6ページ目の1ポツのところに福島第一発電所で5カ所、福島第二発電所で21カ所、柏崎刈羽原子力発電所で4カ所の誤接続がありました。誤接続が生じた原因として①、②、③とあるのですが、柏崎刈羽につきましては、2カ所が基本設計の考え方の不徹底による要因、もう残り2カ所がトリチウムの放出管理に係る認識不足の要因と、こういうふうに分類されております。

これにつきましては保安院の評価ですが、続きまして7ページの1ポツ、安全性の評価というところがありますが、誤接続があった30カ所中、排水実績が17カ所あったわけですが、そのうち15カ所では放出濃度は検出限界値未満でありまして、残り2カ所では検出限界値を超えるものの、法令基準に比べて十分低く、周辺環境への影響を与えないと評価されております。

次に2ポツですが、技術基準の不適合ということで、放射性廃棄物を処理する施設と放射性物質を含まない廃棄物を処理する施設は区別して施設することというのが技術基準で定まっております。今回、誤接続箇所30カ所につきましては、技術基準の要求事項に抵触するものと考えられます。

8ページです。次に3ポツの保安規定の不適合ですが、昭和62年以降、トリチウムの放出管理目標を設定すること、トリチウムの測定など管理された状態で放出箇所から放出することなどが保安規定に定められております。昭和62年以降、排出実績があった17カ所については測定などの管理がなされていない状態で定められた放出経路と異なる箇所から放射性液体廃棄物を放出したものであり、保安規定の要求事項に抵触するものと考えられます。これにつきましては保安院の対応なのですが、東京電力に対して厳重注意を行うとともに、当該不適合について根本的な原因究明及び再発防止策を策定し、報告するように指示しております。

初めの紙に戻りまして、2ポツの2段落目の真ん中ぐらいですが、ほかの電力事業者に対しましても同様の配水管の誤接続がないか調査し、報告することもあわせて行っております。なお、柏崎刈羽原子力発電所4件につきましては、適切な排水先に変更する改造工事が既に行われており、これらについては保安検査官が確認しております。今後、保安検査等を通じて、東京電力の再発防止対策等について厳格に確認を行っていきます。

続きまして3ポツ目です。柏崎刈羽原子力発電所1号機の建物、構築物の健全性評価に係る報告書についてということで、1号機の建物、構築物の健全性について保安院としましては立入検査等により厳格に確認を行ってきました。また、専門家の審議を経まして、厳正に評価を行いました。その結果、保安院は1号機の建物、構築物の健全性が確保されていると評価し、1月21日、評価結果を東京電力に対して通知しております。また、原子力安全委員会にこの件について報告しております。

続きまして4ポツ目。設備健全性評価サブワーキンググループの開催及び現地調査についてです。テレビニュースで報道されていたかと思いますが、1月29日、保安院の

審議会であります設備健全性評価サブワーキンググループが柏崎刈羽原子力防災センターで会合を開催しており、1号機の系統機能試験や原子力安全基盤機構による機器配管系の地震応答解析の状況について聴取審議しております。また、1号機、5号機の系統試験の状況や応答解析の結果から、比較的大きな力が加わっているとされた機器に対して、サブワーキンググループの委員が現地調査を行いました。あと5ポツ目省略させていただきます。

続きまして、もう1枚、IAEAの国際耐震安全センターのワークショップの開催についてという紙がお配りされているかと思えます。後日、正式に発表されますが、これにつきまして国際原子力機関のIAEAの国際耐震安全センターというところがワークショップを開くのですが、以前からご説明しております、耐震安全研究拠点というのが柏崎にて展開されておりますので、保安院としても国際活動の一環として日本で開催していただけないかということをお願いしまして、誘致したものです。これにつきまして3月17日から19日という日程でして、内容はプログラムを見ていただくとわかると思いますが、相当専門的なことが議論される予定です。欧米諸国とかその他の国から、規制当局や専門家が100名前後来ていただいて議論をしようということになっております。一般の方も傍聴が可能です。ただ、使用言語は英語です。日本語ではありません。一応同時通訳を手配予定としております。ご興味がありましたら後ろのほうに参加申込書がありますので、申し込んでいただければと思います。

保安院からは以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。前にも一度されていきましたよね。

次、資源エネルギー庁さん。

◎七部所長（柏崎刈羽地域担当官事務所）

資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当官事務所の七部です。本日チラシを2枚配付させていただきました。1枚は先ほどご案内のありましたように全日空の機内誌で「翼の王国」というのがあるんですけども、その中の一部を使いまして、本省のほうで実施している全国広報の一環で柏崎の原酒造さんを取り上げさせていただきましたので、ご参考までにコピーを配布させていただいております。後ほどこの冊子については回覧をさせていただきますと思いますので、ご参照いただければと思います。

もう一つのチラシなんですけれども、「全国エネキャラバン、考えようニッポンのエネルギーのことin新潟」というものなんですけれども、これは前回定例会でアナウンスさせていただきましたけれども、資源エネルギー庁主催ということで、2月26日金曜日13時30分より新潟市の朱鷺メッセにおきましてエネキャラバンというシンポジウムを開催する予定にしております。これにつきましては、2年ほど前より全国県庁所在地で開催しているものでして、2月26日に新潟市で行いまして、北海道から沖縄まで日本全国全県庁所在地を一巡することになります。使用済燃料の再処理で発生するガラス固化体、つまり高レベル放射性廃棄物の処分については、国内で300メートルよりも深い地下の岩盤に地層処分することになっておりまして、実施主体であるNUMO、原子力発電環境整備機構が、2002年より全国自治体にまず処分場を建設できるかどうかの調査をさせていただく地点を公募しておりますけれども、依然としてまだ決まっ

ていないというところがございまして、まずは日本のエネルギーの状況と原子力発電から高レベル放射性廃棄物が現に発生していることと、その処分には地層処分が考えられていることを国民一人一人にまず知っていただきたいということで行っているものです。エネルギーのこと、原子力のことを改めておさらいしてみたいという方にはぜひご参加いただければと思いますので、先ほど事務局長からご案内がありましたように、委員の方でご参加いただける方は2月20日までに広報センターのほうに登録いただければと思います。

それからちょっと紙では配付してないんですけども、資源エネルギー庁主催で柏崎でも3月14日にシンポジウムを予定しております。3月14日、日曜日、午後2時からなのでですけども、柏崎市民プラザ波のホールにおきまして、エネルギーと環境について、そして電気自動車の普及した低炭素社会におけるエネルギーを考えるシンポジウムを現在検討しております。東京大学名誉教授で千葉工業大学惑星探査研究センター長の松井孝典先生。それから東京大学名誉教授で新エネルギー導入促進協議会代表理事の石谷久先生をお招きいたしまして、地球温暖化問題やEV・pHVタウンの展開可能性についてのご講演、パネルディスカッションを予定しております。EV・pHVタウン構想のモデル地区に指定を受けて、電気自動車を全国に先駆けて普及促進をされている柏崎刈羽地域の皆様方にとりましては、大変ご関心の高いテーマであると思いますので、どうぞふるってご参加いただければと思っております。詳細につきましては今詰めておるところでございまして、できるだけ早く広告を出しますので、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。続きまして、新潟県、お願いします。

◎山田原子力安全対策課長（新潟県）

皆さんこんばんは。いつもお世話になっております。県庁原子力安全対策課山田でございます。

前回1月13日以降の行政の動きについて、紙1枚まとめてみました。設備健全性、耐震安全性に関する小委員会を2回開催いたしました。主に1号機の健全性、建物・構築物、機器・配管の健全性について委員に確認していただいております。あわせて5号機の健全性についても若干意見交換がございました。ただ、中にいろいろと中長期的な検討課題ですとか、7号機の例の燃料漏れについてのさらなる検討を求める意見が委員からありまして、継続した議論になっております。

続いて、紙には書いてございませぬし、行政ということではないんですけども、皆様も新聞報道などでお聞きかもしれませぬが、日本原子力学界が原子力のいろんな、何かあったときのために、それを学者、研究者がいろんな質問に答えるというようなものを想定して、チーム110というものをつくられました。昨日内閣府の原子力委員会で正式に発表がありましたので、私ども職員が実際まいりまして、担当をなさる先生から細かく話を伺ってまいりました。今日はちょっと時間がございませぬので、また次回以降にでも報告させていただければと思います。

以上です。

◎須田危機管理監（柏崎市）

柏崎市でございますが、私ども県と刈羽村とともに、技術委員会及びその小委員会等
に出席させていただいて情報収集等をさせていただいております。柏崎市独自という行
動はこの間特にごさいませんでした。

以上です。

◎武本総務課長（刈羽村）

こんばんは。刈羽村総務課長の武本です。ただいま市と同じように、県と市と技術委
員会、小委員会に参加いたしまして、情報の確認をいたしております。また、各事業所
からの報告も受けまして、それぞれの情報の収集を行ってまいりました。

以上です。

◎長野副所長（東京電力）

東京電力の長野から報告をいたします。お手元の資料をご覧いただきたいと思いま
す。まず不適合事象関係でございますが、公表区分のⅢが4件ございました。内訳といた
しましてはけが人の発生が3件、それから残る1件が使用済燃料プールにおける異物の
発見でございます。

けが人の発生につきましては、協力企業の皆さんと再発防止に向けて一丸となって取
り組んでおりますが、今後とも安全意識の高揚を一層高めて取り組んでまいりたいと考
えております。

3ポツ目の5号機使用済燃料プールにおける異物の発見でございますが、5ページに
概要、それから6ページに写真をつけておりますが、ご覧をいただきたいと思いま
す。使用済燃料プールで燃料番号の確認作業を実施していたところ、使用済燃料の上部に異
物らしきものを発見して、拾ってみたら針金の切れ端であったということでございま
す。7号機の燃料漏えいのごときにご説明をいたしました。炉内にこういった異物がござい
ますと、燃料棒の破損につながる可能性があるということで、こういった異物の混入防
止には気をつけているところでございますが、今後一層、強化をしてまいりたいと思
います。

それから元に戻っていただきまして、6、7号機関係でございます。先ほど保安院さ
んからもございましたが、1月19日、保安院さんのほうから定期検査終了証、6号機
でございますが、いただきまして、営業運転を再開させていただいております。7号機
に続いて2機目ということになります。

それから2ポツ目、1月25日でございますが、6号機原子炉自動スクラム論理回路
の故障についてということでございます。9ページに概要ございますので、ご覧いた
だきたいと思います。この原子炉自動スクラム論理回路と申しますのは、下の概要のと
ころの下に米印で解説をさせていただいておりますが、プラントに異常があったときに自
動的に原子炉をとめる仕組みでございまして、四つの回路で構成されております。その
うちのひとつで故障があったということでございます。原因を調査したところ、プラント
そのものに異常があったわけではなくて、その回路の基板の故障であったということが
わかりました。その故障した基盤を取りかえて復旧をしております。

また1ページ目に戻っていただきまして、その他発電所にかかわる情報でございます
が、3ポツございますが、1ポツ目、2ポツ目が先ほど保安院さんからもございました

が、放射性廃棄物処理系配管の誤接続に関するものでございます。本件につきましては、12月の定例会でご説明をしておりますので、内容のご説明はいたしません。当発電所では4カ所誤接続がありましたが、外への影響はなかったということを確認しております。12ページに、福島第一、福島第二の分も含めた報告書の概要を添付してございますので、ご覧をいただきたいと思っております。

2ポツ目、この件に関しまして保安院さんのほうから指示文書、嚴重注意を受けております。14ページにプレス文を添付してございます。当社といたしましては、今後根本的な原因究明及び再発防止対策を策定して改めて保安院さんのほうに報告をすることとしております。

最後です。3ポツ目でございますが、1号機と5号機の関係でございます。1号機と5号機は現在、系統機能試験を実施しておりますが、その設備の健全性にかかわる点検評価計画書の改訂版を国のほうに出しております。改訂の内容としては16ページにプレス文をつけておりますが、系統機能試験の項目の追加でございます。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。ほとんど予定の時間どおりですけれど、質疑が本来受けるんですが、どうしてもという以外は先送りさせていただきたいんですけれど、よろしいですか。

では3月以降で、もしこの件に関してもご質問がありましたら3月以降の定例会でお願いいたします。

では、今日の前回からの動きはここまでで終了させていただきます。

(3)に移りますけれど、ちょっと場所を変えますので、数分お時間いただきます。

◎事務局

それでは、次の情報会議に移ります前に、ゲストの皆さんから正面のほうにお移りいただきますので、いましばらく時間をいただきたいと思っております。また、委員の皆さんには前もってお知らせをしておきましたけれども、委員の皆さんが所感を表明される持ち時間は3分間です。ベルを2分半で1回、それから3分で2回鳴らします。3分で終了していただくということでございますので、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは進行について、新野会長、よろしく申し上げます。

◎新野議長

では(3)に移らせていただきます。情報共有会議という新メンバーも何人かいらっしゃるんですが、私どもは団体から推薦は受けていますけれど、一個人として発言するという形になっています。発言は推薦団体の母体の総意でないということも少しご理解いただくのと、あとここでは最初から発電所の存続にかかわる発言は控えるというような申し合わせがありますので、私どもは存続云々ではなく、安心・安全に関して住民が何を望むのかとか、何がわかると理解できるのかというレベルのお話をここでさせていただくので、そういう思いをせっかくおいでいただくオブザーバーさんと、傍聴していただいている方々にお伝えできればというのが3分なわけなんです。今度オブザーバーの方たちと今日のゲストの方たちにはその思いを深く聞いていただいて、何かの施策とか何かお仕事上に取り入れていただいで生かしていただければというキャッチボールができ

るかというのがこの生命線ですので、ゲストの方にもよろしくどうぞお願いいたします。

では早速ですが、始めさせていただきます。まず委員のほうからリラックスしていただいた発言をいただきながら、最後にゲストの方たちからそれを受けとめて、なおかつ今どういうふうにお考えになっているのかというメッセージをいただくということになっていますので、よろしくお願ひしたいと思うんですが、なかなか皮切りは難しいかとは思いますが。とにかく多分1回発言がやっとかと思ひまして、まず皮切りになっても3分、最後も3分。どなたか勇気ある方、いらっしゃいますか。でもこれ、私たち専門家じゃないので、あまり固くならず。

はい、牧さんお願ひいたします。

◎牧委員

それでは、私は西山町坂田の町内会の会長もやっております。坂田の自主防災の防災会の会長もやっております牧ですが、私のひとり言というふうなことで、今の自分たちの自主防災は一体どうなっているのかという話をしたいと思ひます。

まずこの地域に原子力発電所がある限り、原子力発電所の事故が絶対ないとは言えないと思ひます。私は町内会長として、また自主防災会の会長として、大きな災害が起きたとしたら本当に対応できるのだろうか考えさせられてしまう。色もない、香りもない、見ることもできない放射線に敏感になってしまうのも仕方ないというふうにお願ひしております。

微量の放射線が漏れたことに対しても、報道ではものすごく大げさだ。大嫌いなニュースキャスターもいます。放射能漏れはいいことではないが、こっちは地元です。早く逃げる必要があるのかどうか。ないのかあるのか、そっちがうちらにとっては先だと思ひます。私の町内では168世帯、548名います。施設に入っている人13名、75歳以上のひとり暮らし11名、それ以外の要支援者は19名、小学生以下は43名います。

もし仮に自宅内に避難しなさいというふうな防災無線が鳴ったとしたらどうなるだろうというふうなことを考えます。この段階ではまだ私はパニックにはならないだろうと思ひますが、そこら辺のところはよくわかりません。それがもし夜だったら、ほとんどの家族の人は家にいるのだろうというふうにお願ひします。昼間だったらどうなるだろう。この段階で自主防災の役員25名を集めて対応しなければいけないのではないかと。役員の方々は大体が家にいる人で動きやすい人たちを選んだつもりだが、100%ではありません。今考えると20名ぐらいしか集まっただけじゃないかなというふうにお願ひします。この段階で終わってくれればいいんですが、次のステップになると夜昼問わずパニックになると思ひます。

そのときおれたちはどうすればいいのかということをお願ひしています。75歳以上のひとり暮らしでも健康で歩ける人は多い。あとは要支援者だ。本当に手助けの必要な人をリストをつくるというふうなことです。

以上です。

◎新野議長

まとめました。ありがとうございます。原稿を書かれている方もおありのようです

が、アドリブの方でも、いかがですか。上村さん。

◎上村委員

今の防災計画についてなんですけれども、前回も言ったとおり、私どもとしても合併になって町内が広がったのはいいんですけれど、私どもはずれの間人として、柏崎の地理が全然わからないという人はものすごく多くいます。そういうもので、もしできましたら昨日、おとついでですか。荒浜あたりでも火事があったり何かしたときでも、そういうのをちょっと流してもらえると、どの線が使えなくなるとかという情報が理解できるんだと思うんですけれど、なかなかそういうのが地域住民のほうでわからない部分があるので、よろしくお願いします。

◎新野議長

ありがとうございます。先回は1月のときは、外からいらした方たちが不安にというようなご意見ありましたよね。

◎上村委員

先回も言ったんですけれども、外から来た人たちがどの線が通れるのとか、そういう尋ねられても私どもも、もとがわかりませんので、説明のしてみようがなくて地震のときもそうだったんですけれども、ちんぷんかんぷんの回答をしていたというのが実情なもので。もしできましたら、今ここがどこだというのをわかる、いわゆる住居表示みたいなものとか、そういうのがもうちょっと密にあったら生活しやすくなるんじゃないかと思ってますけれども。

◎新野議長

ちょっと離れた郊外のところで、旅人が突然何かの危険にさらされたりしたときに、自分の立ち位置がわからないんじゃないかというようなご意見ですね。

次、どなたかいらっしゃいますか。はい、伊比さん。

◎伊比委員

伊比です。私は今日、まず最初に会長が冒頭言いましたように、地域の会の目的、これは柏崎刈羽原子力発電所の一住民として、私は個人で参加させていただいているという観点から申し上げたいんですが、まず発電所の安全性、それから透明性確保ということと事業者の取り組み及び状況ですね。それから国や地方自治体の活動状況というものを継続的にかつ確認、監視、提言をするというのが目的になっているわけです。

そういう観点からちょっと私は今回、柏崎市で原子力安全基盤機構というものの研究活動を開始しますという広報が発表されたわけです。これのスタートはたしか去年の5月に会田市長が7号機運転に当たってということで、国に対してたしかこういう要請をされたと思うんです。それが具体的にこの1月にその内容が発表されたということです。これは住民にとって大変画期的なことが数カ月間に起きたということで、私はこれは評価は大だなということなんです、ただ、まだ宣伝がちょっと、私はこういう面では国も県も市も足りないんじゃないかなと。せっかくいいことをやってもらって、地域の住民に安全だよと、そして安心できるよということをもっとPRをもう少しやっていただかないとできないことだろうと思いますし、それからこの原子力安全基盤機構というものがどこの機関に所属しているのかということも私もよくわかりません。ということですから、その辺をよくはつきりとおっしゃっていただいて、そういったところの行政がし

っかりとこの柏崎刈羽の住民に示していただくと。もちろん県も市も一緒になってやっていただきたいなというふうに思いますし、研究活動の内容も今回は地元の大学、新潟工科大学、東京電力、それからJNESさんということで、JNESさんの研究センターをお使いになるというふうに聞いておりますけれども、具体的な中身が二つほど目的としてあるようですけれども、我々素人にとってはわかりません。その辺の内容をわかりやすくできたら専門の立場の方からご説明をいただきたいなということと。

それからもう一つは、つい最近、文部科学省の公募ということで、長岡技術大学とそれからこれをアシストする大学として新潟工科大学と長岡専門工業高校ですか、こちらが何か参画してそういうものを推進する、人材育成すると。大変これもいいことだなと思っていますので、こういうことも一つ大いにやってもらいたいなというふうに思います。よろしくをお願いします。

◎新野議長

ありがとうございます。きっと中間のプロセスを時々解説してほしいという要望も入っているのかと思います。

次、お願いいたします。中沢さん。

◎中沢委員

私、最近の思いというか、要望というか、そういうことでお話ししたいのですが。

今、平和で安全なトリウム熔融塩炉による原子力発電の開発というようなことの内容なんです。原発はCO₂を出さないということから、地球温暖化対策の切り札として非常に今、注目されております。発展途上国では次々と原発を建設する計画が進んでいます。しかし、このCO₂を出さないというのは、発電時の核分裂反応でCO₂を出さないということであって、巨大な施設の建設や保守管理には多量のエネルギーを消費するということから、CO₂を削減する効果というのには疑問が残ります。

私は去年ですけれども、新聞である科学ジャーナリストの方が寄稿した記事を大変興味深く読ませてもらいました。それは最近トリウム原子力が急速に脚光を浴びたということで、アメリカのオバマ政権がこのトリウム原子力の研究に予算づけをしたということです。日本でも元東京電力の副社長さんの豊田正敏さんがトリウム原子炉は現在のウラン原子炉技術の延長線上で実現できて、柏崎刈羽原発でもそのままトリウムを燃やせるということをおられて、極めて有望であるというふうに主張されておりました。

私はウランを燃料とした現在の原発は、多くの活断層が存在する日本列島では安全性に大きな問題があるというふうに思っておりますし、また現在、国と電力会社が進めている核燃料サイクル政策にも大きな問題点があり、行き詰まり状態になっているんだというふうに思っています。そういった状況を考えると、現在のウランを使った原子炉からトリウムを使った原子炉に方向転換するというのが最もよい方法ではないかというふうに思っています。トリウムはウランと違ってプルトニウムなどの核分裂生成物質も出ないということから、核兵器にもなりにくいと。そして資源の量はウランの3倍以上もあって、そして値段も安いということで、核兵器廃絶の世論にもこたえることができるし、平和で安全な原子力発電になるのではないかなというふうに思っています。ぜひ日本でもこのトリウム熔融塩炉の研究活発を進めてほしいというふうに思っております。資源エネルギー庁さん及び東京電力の考え方をお聞きしたいと思います。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。次、どなたかいらっしゃいますか。

吉野さん、お願いします。

◎吉野委員

吉野でございます。昨年の情報共有会議以降の1年間をかえりみまして、原発運転再開の安全性について意見を述べたいと思います。

まず第一に、政府や電力会社、原発メーカーは、これまでアメリカの方針に従って核エネルギーのプラスの面だけを商業的に利用しようとして原発を推進してきました。その長年の流れの中で、どうしても原発震災の損傷を軽く見て、運転再開が可能だという前提のもとに安全性を立証しようとしてきたように見受けられます。第二に、これに対して新潟県としては、県民の生命や財産に直接責任を負う立場からより慎重に対応してこられたと思います。県の技術委員会では二つの小委員会で運転再開推進側と慎重側の対立する意見が拮抗して、両論併記の結論が出されました。それを受けた親委員会である技術委員会では、その意見の食い違いをしっかりと審議して問題点を解明し、その結果を県民に説明することが最も必要なことだったと思います。

ところが、私も技術委員会を傍聴しに行ったのですが、座長さんは拙速に一方的に安全だという結論を出してしまいました。また、両小委員会の委員長の山崎さんや北村さんは、以前この地域の会に来られて地元の切実な意見や要望を熱心に聞いていかれました。ですから、お二人には両小委員会で両論併記の結論が出た後、その問題点について地域の会で説明していただくべきだったと思います。今現在でも新たな地震に対する安全性は立証されたとは思われませんし、五つの号機はまだとまったままです。したがって、今でもまだその必要性は変わっていないと思いますので、お二人にはぜひ地域の会に説明に来ていただくようお願いすべきだと思います。

最後に柏崎市と刈羽村では、県知事さんが運転再開に同意する前に同意の意向を示しました。県の原子力安全対策課が技術委員会の事務局であり、安全性についての専門家のより詳しい情報を把握している立場でしたので、知事さんがより慎重に時間をかけて熟慮されていたのだらうと思います。それなのに地元の自治体が県の判断に先駆けて同意の意向を示したのは早まった拙速な判断だったのではないのでしょうか。地元の経済的事情などを考慮した苦渋の選択だったのかもしれませんが、しかし、政権交代があってからは政府の方針も命を守る政治への大転換を図ろうとしています。震災原発の運転再開の安全性の問題は、私たちや私たちの子孫の命に直結する大問題です。その判断には慎重の上にも慎重を期する方向への大転換が今こそ必要なときではないかと思います。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。続いてお願いできる方、いらっしゃいますか。

前田さん、お願いします。

◎前田委員

ニューエネルギーリサーチという、柏崎はエネルギーの町ですので、原子力発電所誘致に関連して、新エネルギーを自分たちでも考えてみようという趣旨でつくられた団体

から出ている委員であります。

実は私どものほうのニューエネルギーリサーチでは、原子力発電所は現実問題としては絶対に必要だろうという意見で前からまとまっております、私もずっとそういう考え方であります。ただ不祥事の起こった時点のことを考えてみますと、非常に大企業である東京電力の中もあの程度の管理体制なのかというような、非常に愕然とするようなことを感じたわけであります。

ただ、現在のこの平成22年の時点を考えますと、そういう不透明な部分は払拭されて、中越地震、中越沖地震においても安全性は確保されたということを改めて我々のメンバーの中でも話が、これでよかったのだろうか、要するに安全なのだろうかという話をしたときに、そういう結論でした。

それと一般市民の方たちはどうしても日本が被爆国だということで、原子力に対する不安感がぬぐえないでいるのは、これはもう数十年来変わらないと思うんですけども、軽微な放射能漏れはありますけれども、放射線に関連する事故はいまだに数十年の間、起こっていないということも評価されるべきだろうと思います。それと私、委員になって初めてわかったんですけど、柏崎ほど反対の皆さんが力のある地域は日本に存在しないんだということを初めて知りました。そんな中で逆に言うと住民にとってはそのことにはある意味、健全な反対派というのは地域にとっても安全を担保する意味で必要ですから、しょうがないかなというふうには思うんですけども、そういう中で反対もしながら推進もしているというちょっと中途半端なんですけれども。ただ、最近の柏崎の経済状況を見ますと、やはり先人の皆さんのおかげで原子力発電所という大きな企業があるのおかげで柏崎はすごく助かっているんだなど。これは住民としてもやはりある意味、東京電力に対してもっと好意的な、そして協力的なところをするべきではないかなと最近思っている次第であります。

最近の所感、ニューエネルギーリサーチで聞いた話も含めてちょっと皆さんにお聞かせしました。ありがとうございました。

◎新野議長

ありがとうございます。高橋さん、お願いします。

◎高橋（優）委員

高橋と言いますけれども。実は1月20日にこの柏崎市では一層の低炭素社会ということで、市の環境審議会が開かれました。本年度第1回目の会合だったんですけども、この中では市民の参加と協働による環境配慮ということで各基本項目が立てられまして、その中では合計で33の指標を設けたという記事があります。しかし、その33の指標の中には、原子力発電というのは位置づけられていない。環境対策としては位置づけられていないということもはっきりしています。まずこれを前提に話をさせていただきたいと思いますが、去年2009年6月2日の日経新聞に全面広告が出たのを皆さん、覚えておられますでしょうか。それはアメリカの非常に権威のある国際NGOが日本での最新の世論調査を発表しております。つまり、地球温暖化と経済危機というモンスターが今世界を覆っているわけなんですけれども、ここに住むすべての人々を脅威に、脅かしているということなわけです、地球温暖化と経済危機が。

日本人の6割は2020年までに温室効果ガス排出量を25%以上削減すると、こう

いう強力な武器で双子のモンスター、今日は節分ですから鬼退治とでも言ったほうがいいのかもわかりませんが、退治するよう求めているというものなんです。この地球温暖化と経済危機の両方克服することによって、新たに数百万の雇用をもたらすということも期待されているという記載もあります。

しかし、CO₂をたくさん排出する一部勢力は、麻生首相に対して両方のモンスターを倒すのは無理だから逃げたほうが良いと唆しているという広告なんです。その麻生さんのポスターも北条ではもう半分下がちぎれて斜めになって、今年の7月11日、風がふけば吹っ飛んでいくでしょう、ポスターの話ですけれど。

では日本でCO₂を出している企業はどこかと私、去年だったか一度聞いたんですが、資源エネルギー庁の方は答えられませんでした。答えなかった、わかっていたんだと思いますが、答えませんでした。気候ネットワークというNGOのホームページでもそれは東京電力だということにははっきりしています。日経新聞の記事にもそれは載っています。そして2009年4月政府は温室効果ガス排出量算定報告公表制度に基づいて資料を出しています。ここにも柏崎刈羽の発電所はCO₂を8,590トン出しております。もちろんリケンだとかブルボンも出ています。

私は今、歴史的な転換点に立っていると思っています。小沢一郎さんは刑務所のへりに立っていますけれども、私どもは歴史的な転換点に立っているんじゃないかと思っています。例えば、柏崎市でも1月1日には核兵器廃絶宣言がされて、世間の流れと本当に歴史が変わってきています。気候変動という脅威に対して、解決に立ち向かわなければならない時代に向かっているという、そういう意味でも歴史的な転換点に立っています。庶民的に言えば、嵐がSMA Pを超えようとしているということも言えるかも知れません。

◎新野議長

高橋さん、お時間です。

◎高橋（優）委員

わかりました。そういうことを強調して発言を終わります。

◎新野議長

ありがとうございます。今日はちょっとルールが厳しいので、ご了解ください。

池田さん、お願いします。

◎池田委員

荒浜21フォーラムより参加しています池田と言います。私は自営業をしているのですが、仕事で発電所へ入る機会があり、そのときの感想を述べさせていただきます。

以前は工事前の事前検討会やTBMKYに電力の方はほとんど参加することはなく、発注者と受注者みたいな関係があり、どことなく温度差みたいなものを感じていたのですが、今回は電力の人を含めて、みんなで一つになってやり遂げるのだという雰囲気や意気込みを感じました。以前にはこのようなことはなかったので、大変感心しました。

さて、発電所では全号機の復興に向けて大変多くの工事、作業が行われているかと思いますが、ぜひこうした努力を地道に積み重ねていただきたいと思います。今はまだ目に見える成果は出てこないと思いますが、必ずよい方向へ向かうものと期待しております。また、2機の運転号機については安全、安定運転を、残る5機については安

全優先にしっかり設備を点検、復旧して災害に強い発電所として復興させてもらいたいと思っております。

同じ町内のある方が私に、『天気の良い日は海岸へ行き、発電所に向かって手を合わせているんだ。そして今日も一日発電所に何も起きなくてよかった、明日も事故のないようにという願いを込めて手を合わせているのだ』とも話してくれました。私の出身母体は荒浜21フォーラムですが、原子力発電所立地建設の折は、町内が賛否に分かれ、両論を戦わせた歴史があります。その中で前身の「荒浜をよくする会」の先人たちは原子力発電所との共存共栄を選択し、現在に至っています。私はこの方のように本当に発電所の安全を願うばかりです。そういったことを肝に銘じて、しっかりと発電所を運営していただきたいと思っています。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。天野さん側にマイクが回りましたから、いかがですか。

◎天野委員

天野でございます。この会にまだ参加させていただいて1年足らずでございますけれども、非常に難しく私はわかりません、原子力についての。ただ一般的に思うことは、電力というものは私たちの生活にとっては欠かせないものだと、不可欠なものだというふうに私は思っております。今の私たちの暮らしは電力なければ文化的で豊かな生活は考えることができないというふうに私は思っております。これからだんだんと電力の需要がさらに増して私たちの暮らしを潤し、そして豊かにしてくれるものと私は思っております。

環境に優しい風力、あるいはまた今、風力とかあるいはまた太陽光発電などの研究が進められておりますが、技術的には未完成であり、安定した電力の供給は不可能であるというふうに私は思っております。今増大する電力の需要を満たし、電力の安定した供給のできるのは原子力発電ではないかなというふうに私は思っております。しかし、事故の発生したときには大きなリスクを伴うことは皆さんもご承知のとおりでございますし、私も承知しております。ただ現在では原子力発電に頼らざるを得ないのが現在の姿ではないかなというふうに思っております。

原子力発電所は地球の温暖化の防止、あるいはまた温室効果のガスの削減にも大きく貢献していることは事実であります。人間のつくるものには完全なものはありません。不具合なところはその都度改善し、完成されたものをつくっていくのが人間の知恵ではないかなというふうに私は思っております。日本の原子力発電所の技術は、世界に誇るべきものだというふうに私は思っております。東京電力さんにおいては地震以降、全力を挙げて復旧作業に努めておられます。全号機が一日も早く安全に運転が再開されることを願うものでありますと同時に、災害に強い、そして柏崎刈羽に大切な地元の企業として共生することを望むものでありますし、また地域社会に大きく一つ貢献していただきたいなというふうに願っております。

以上でございます。

◎新野議長

ありがとうございます。次、どなたかご発言ありますか。

浅賀さん、お願いいたします。

◎浅賀委員

地震以後2年半過ぎまして、6、7号機が運転再開されたわけですがけれども、私ども仲間うち、住民にとって、すべて地震による損傷が解決された、原因究明されたというふうには思えないところもあります。

運転再開を急ぐためにという事故やら火災やら、そういう不安が多少残ります。そういうささいなことと思われるようなことが私どもの住民の不安につながっていますので、安心・安全につながっているとは思えません。

一つずつ、今時間がないので申し上げるわけにはいきませんが、活断層につきましても、長さが違ったりとか、いろいろな問題を残したままですし、また試験運転中の7号機の放射線漏れ、微量とはいえ、あってはならないことです。そういうことが私たちの不安につながりますので、県市町村の行政はもとより、国ではより一層の住民サイドの防災を考えていただきたいと思っていますし、より一層の具体性をもって私たち住民にお示しいただきたいと考えております。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。まだこちら側でもいらっしゃいますよね。

三宮さん。

◎三宮委員

三宮と申します。私は原子力は必要なものであるということと、またこの地域にとってもこの原子力発電所というものは、交付金にしてもそうですし、雇用の創生という点においても非常に大きく貢献しているというふうに考えております。

実は私、金属加工業の企業に勤めておりました、出がけにうちの社長と、ちょっと今日早目に来なくちゃ間に合いませんのでその話をしましたら、新潟県原子力活用協議会というのにうちの社長が入っていたというのがわかりまして、それでちょっと話してみた中でその点に関してちょっとお聞きしたいこととお話ししたいことがあるんですけれども。この金属加工業界等は今、自動車産業やら家電産業が海外、特に中国のほうに移転していっていますと。そんな中で地元や県内でも非常に停滞しているというのが実情だと思っています。

その中で海外にも移転せずにこれからの成長、あるいはまた縮小しないような産業が原子力関連の産業だというふうに思いますけれども、そういうものが県内や地元にはあまり、原子力関連の部品や製品を出荷している企業が非常に少ないんじゃないかと。極端に少ないんじゃないかというふうに思っております。今まで発電所建設費から今まで長い間にいろんな方策が講じられてきたかと思うんですけれども、そういう育成や指導ということをして市、村、または県、国はやってこられたのかどうかということをお聞きしたいというのと、これは今後、自分の考えというか、あれなんですけれども、せっかく世界に名立たる原子力関連産業の日立さんとか、東芝さんとかあるわけですから、そういうところから協力を得て、原子力テクニカルセンターみたいなものをつくっていただいて、原子力産業に挑戦できるような企業の育成、指導というものをできないかというのをぜひ国や県や市、村に検討していただきたいと思っておりますし、東京電力さんにもぜひ

協力していただきたいなというふうに思っております。

そういう原子力関連の産業が浸透することによって原子力との共生という立地地域というものがより確かになっていくのではないかなというふうに思っております。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。割に新しい論点ですかね、この会では。そういう絡みもあるかもしれないですね。

川口さん、お願いします。

◎川口委員

川口です。今率直な思いとしては、無事に二つの号機が稼働してよかったなと思っております。この中で、実際問題、原発がずっと稼働していて、大きな地震があったにもかかわらず、「止める・冷やす・閉じ込める」はきちっとできていたのではないかなと思っております。その中であたかも原子力災害があったような報道があったり、そういったことはやっぱり大きな反省点を残したんじゃないかなと思いますし、その報道に対してやっぱり国、県、市、村はきちっと対応を考えていっていただきたいと思います。

また、安全というのは大前提でありますけれども、これから九州でもプルサーマル始まっております。今後はやっぱりそういったものをいかに安全に住民に理解してもらってやっていくかということも考えていっていただきたいと思いますし、あと県についてはやっぱり確かに安全については今回、力を入れたような気がしますけれども、県としてはやっぱり推進の立場も当然あると思いますので、今日じゃなくていいんですけれど、推進についてと安全についてと、どういうふうに使い分けているのかを聞かせていただきたいなと思っております。

あと今後はやっぱり原子力発電所とどのように、三宮さんが言ったように共生していくかということを実際にやっぱり考えていかなきゃいけないのかな。その前に安全は大前提です。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。高橋武さんお願いします。

◎高橋（武）委員

青年会議所から出向しています高橋です。よろしく申し上げます。皆さんより僕は全然準備してなくて、時間を置いて申しわけございません。

私がまず思ったのは、若い目線での発想なのですが、やはり最近の地震関係の問題は比較的東電さんの対応やら県の対応と思いながら、地震に対しては比較的安全・安心というものが、担保ができたとは言いませんが、若干なりの不安はぬぐい去ることができたかなと思っております。

ただ、やはり私が若い世代であるということは、今後の数十年後を見通して原子力政策というものにやはり一抹の不安があるというものはあります。そういった意味で原子力発電所を懸念したり、プルサーマルの問題あり処分地の問題が上がってくると思うんです。

そんなときに最近ニュースで見えていたのが、沖縄の基地問題と何か似たような

感じがあるのかなと思っております。なぜかと言って、基地問題といい、原子力発電所といい、住民にとっては比較的厄介者なのかという関心を持ってニュースを見ておりました。でもそんなときにニュースを見ていて思ったのは、やはり政治の力と言うんですか、国の力、行政の力、やはり行政、国のトップが住民に対して説明責任というものはやはり今、ニュースでは盛んに言っているのが、昨日等のニュースの話だと思っております。

だから、今後のプルサーマル含め、高経年化の問題等が立ち向かったときに、私は行政の長なり国のトップがやはり住民に対して誠心誠意説明があってほしいなというのが未来に対しては私は感想を持っております。

それでまた、東京電力さんに言わされている感があると、やはりそういう面では住民というのは比較の見透かされるというのか、何かそういうのがあるので、やはり国のトップが私たち住民にとって本当に必要なんだというのが説明していただけると私は住民として賛成の意ができるのかなと思って今日あえて行政の、せっかくトップの皆さんがいらっしゃるので、意見だけ生意気ですがさせていただきました。

という意味で、私たち若い目線が今後、不安ないように皆さん、諸先輩方がそういった意味で引っ張っていただければ私たちは住みやすい社会になるのかなと思っております。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。では関口さん、鬼山さんという順で。

◎関口委員

関口です。私1年目なのでどうい、先回ちょっと雪のために欠席させていただきましたので、どういう趣旨なのかいまいよくわからないで最後のほうになってしまったんですけども、私、今回の所属している会で活動している中で体験した中から思いを話させていただきます。

私、エネルギーの勉強にかかわってきて、今まではどうしても発電所立地地域住民として電気消費地である関東圏にばかり目が向き、電気がどこから来ているのか知らないなどと聞くと、柏崎刈羽に思いはないのかと悲しい気持ちになっておりました。でも中越沖地震以降、新潟市にて私たち柏桃の輪でワークショップを開催したのですが、そのとき参加された同じ新潟県に住む皆様から「海には入れるの」「ワカメって食べられるの」などと風評被害的な質問を受けて愕然としたことを覚えています。知らないということは恐いなという複雑な思いをしました。

昨年10月、同じく柏桃の会で柏崎刈羽以外の新潟市及び長岡、三条5市より30人の方々と一緒に発電所を見学した後、交流会をやりお互いの意見交換の中から、決して原子力発電所に無関心ではないということ、柏崎刈羽住民の安全・安心を願う気持ちをわかっていることを強く感じました。ただ、残念なことに原子力発電所の情報がまるで届いていないということ。また情報の取り入れ方がよくわからないという意見を聞きました。正しい情報を発信し、正しい情報を共有することは理解を深めることに大切だと思います。パンフレットを置きましたとか、300人ぐらいで説明会をしましたという一方的なやり方ではない、国、行政、事業所、それぞれの立場でいろいろな方法で原子

力発電所立地県、新潟県内に情報提供をしていただきたいと思います。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。次、鬼山さん、お願いします。

◎鬼山委員

鬼山といいます。僕は皆様とちょっと意見が違いまして、原子力政策を一步進めて考えてもらって、先ほど資源エネルギー庁ですか。パンフレットをもらったとおり、地元ですので放射能、廃棄物と処理地層処分。これをできるだけ地元のほうで受けていただければ一番よいのではないかと思うんです。人のところへ行ってごみを捨てるよりも、自分のお家を出したごみはやっぱり地元で処理して、そういう考えを持ってもらって、できればこういうのに参加していただきたいなという考えを勧めたいと思うんですけれど。これをやることによって、今、財政とか雇用問題もある程度いけるんだと思います。ましてやこれを進めてもらうにはいろいろ理解とかまだ必要だと思うんですけれども、今、この柏崎刈羽、こういう意見とかいろいろ言える場所が整っていますので、一つ考えてもらってはどうかと僕は思います。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。そうすると三井田さん。

◎三井田委員

コミュニティ推進協議会の三井田でございます。

以前にも若干申しましたのですけれども、発電ということ、電力供給ということのときにも石油を主に燃すわけですけれども、石炭も燃してますけれども、そのときに化石原料ですね。燃料ではなくて化石原料というのは今我々の生活の基盤を支えているわけです。これがなければ電線の被覆もできないし、あらゆる、自動車とかみんな動かなくなるわけで、そういう意味で化石原料を大事にするという、原料ですね。大事にするという建前から、原発というのは、原発がいい悪いというよりも、なくていいかあってほしいかという、そういういい悪いの問題ではなくてあっていいかどうかという話になるというふうには私はとらえておるんです。

それから、今一番安全・安心ということですが、安全というのは個別的につぶせるし、それから物理的にも考えられるし、技術的にもやれるんですけれども、安心というのは感覚的なものであって、これは非常に今ここでやられている情報の共有化ということと非常に関連が深いわけで、これは共有化というのは言葉で書いたり資料を見たという、そういうのも共有化ですけれども、感覚的な共有というのも大事だと思うんです。

さっき東電さんのほうとそれから中で施工している会社なんかが最近は一体感が強くなってということがございますですが、いろんな事故が起こるときの中身としては、設計的なものに起因するものと、品質管理的なものに起因するものと、工事管理に直接関係するものと、日常的なメンテナンスとかそれもあるわけですけれども、最近の事故の性質を見ているとかなり工事管理的なものが多いんです。バックデータはちょっと忘れちゃったけれども、全国で原発の事故が起こっている中で3分の1ぐらいが柏崎

だというふうな、何か見たような気もするんですけれども、数は広報するものが多ければ多いほど、細かくすれば数が多くなるので、数の多さは別によそと比べる必要はないと思うんですけれども。一番今多い工事管理的な事故というのを、これは簡単に減らせることなので、またこういう数が多いと非常に不安を出しますので、全体に原発の管理体制どうなっているんだという不安になっていろいろつながりますので、こういうことで事故の性質によっては、今みんな東電さんが説明されていますけれども、工事的な事故の説明によっては、場合によっては工事を請けている元請けのその所の長さんが来て、こういう雰囲気に触れてもらうということも大事じゃないかというふうに思っております。これは管理姿勢というか、管理風土というか、そういうものがだんだんよくなればささいな事故というのはかなり減ると思いますので、そんなことはどんなものかと思っています。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。では武本さん、続いて。

◎武本委員

私はちょっと違うというか、計画の最初から、ここは原発の本当に建てられる場所だったのかどうかということが心配なんです。具体的には、東京電力が地震後、建屋の観測をしていますけれども、まだ動いているということ。こんなことが去年の8月の観測結果まで見て、荒浜側はどんどん隆起しています。大湊側は沈み始めています。岩盤につくらなければならないというのが昔の基準で、今は支持地盤でなければならないというふうに変ったというのはわかるけれども、こんなに揺れ動く原発はどこにもないです。このことを誰が審査するのか。

先ほど経済産業省も保安院も厳正厳格とか、電気がどんどん要るとかということを行っているけれども、これもおかしい。なぜならば東京電力の最大電力は10年前がピークでした。キロワットアワーで換算しても3年前から減少に転じています。高齢化社会を迎えて今までのような時代ではないわけです。そして今私が具体的に言った、ふらふら揺れ動くことを誰が審査するのか、誰が調査して判断するのかということに疑問があります。それはつい先日、JR西日本が事故調査の事前データを得ていたということで社会的に批判されましたけれども、原発の調査は全部事業者しかやらない。それを電気が欲しい役所が異常なしというような関係でいいのか。私は県や市にこうした具体的な問題について一体どうなっているんだかということをはっきりさせてもらいたいです、まず。

今どうなっているか言うと、東電はそういうことを課題だということで知見を拡充しなさいという県や市の指示があって、やりますということになりましたが、東京電力がお金を出して、地震予知研究委員会でしたか。そんなところへ丸投げする。しかしその審査は非公開。これでは信頼なんか得られないと思います。

具体的な問題は幾つもありますが、こういうことをきちっと解明するような体制でなければならないということを言いたいと思います。そうでなくても大勢の人が原発にかかわっている地域で、なかなかはっきりと物を言いにくい雰囲気があります。行政も財政的に首根っこをつかまえているようなことがあって言いにくいでしょうけれども、こ

ういう安全の問題についてはきちっとしてもらいたいということを言いたいと思います。
以上。

◎新野議長

ありがとうございます。あとは久我さんで終わりですか、こちら。そして佐藤さん。

◎久我委員

柏崎市さんから推薦をいただいています久我ですが、私は今日ここで何を話そうかと考えたときには、実はこの会の話をしたいなと思って考えていました。私はこの会が設立するトラブル隠しの1期の後の2期目から実は委員をさせていただいています。ちょうど2期半過ぎて5年目が経過しています。最初のころのこの会の様子、それから東京電力さん、ましてや国、県、市の皆さんの広報の仕方だとか、わかりやすさだとかということをも市民レベルで実はお話をさせていただきました。地震以降であれば、ほとんど地震の専門的な話でしたから、この2年過ぎというのはどっちかと言うと専門的な部分でわかりにくかったというのが実は感想です。

ところが、ここ数カ月と言いますか、情報がこれでもかこれでもかという感じで出てきているというのが実は私の感想です。武本さん、今、出ていないという話もあるんでしょうけれど、けが人に属すれば指をトンカチで叩いたまで情報公開をされていたと。そのうちカットバンつけるぐらい、カッターで手を傷つけてカットバン巻いたぐらいまでもしかすると何とか区分に出てくるんじゃないかと心配するぐらい、これでもかこれでもかというぐらい情報が出されました。ここ数カ月に関しては、本当にこれは東京電力のエラーなの、それとも管理なの、それとも下請さんなのということで、この中でもいろんな議論がありました。

私はどちらかというところこれは名前と言いますと、「透明性を確保する」という地域の会から、本当はもうそろそろこの会も透明性を検討するというような、もう一歩こっちもステップアップしていかなきゃいけないんじゃないかなと思っています。もうあと1年という任期ですから、その後名前が変わるのか、会がどうなるのか私はわかりませんが、やっぱりこちらのほうの立場も、ただ出せ出せ、出せ出せ、どうだ、どうだということよりも、出た内容がどうなって伝わっているのか。どういうふうに私たちにとっては吸収するべきなのか、それでもできればこれから皆さんとともに僕らも検討していかなきゃいけないというのが今の感想です。

川口委員さんのほうからプルトニウムの燃料の利用というのが、恐らくこれからの課題になるだろうということも言っていました。私もプルサーマル問題というのは必ずこれから柏崎の議場に上がってくるものと確信をしております。ということであれば、このプルサーマルも含めて、それから地質とか設備とかちょっと難しいですけども、この部分についても市民レベルでわかりやすい広報の仕方、検討しやすい説明の仕方なんかを、やっぱりこれからの地域の会としての重要な課題だなというふうに感じております。それが私の意見です。

以上です。

◎新野議長

では佐藤さんお願いします。

◎佐藤委員

私はいろんな意見が出たので、どういう話をしようかなといろいろ考えたんですが、やっぱり防災の話をしたと思います。というのは、原子力災害の防災について見直しを県がされ、柏崎市もされたということで、その中では複合災害というのが全国に先駆けて入れられています。ただ、全体を見るとどこかの専門のところで作られて、県がいろいろと意見を言って、最終的に一つのものとして作られたのだと思いますし、市はまだ県から認可をいただけていないのでという話ではありますが、何となく全体的に見ても、平面的で立体的じゃないという、そういう感じがいたします。

それからもう一つ私が言いたかったのは、中越地震後のいろんな防災についての議論がありました。その部分が、例えば実施要綱だとか、そういうものとして何か残されているのかというと、そういうものがないんじゃないかという感じがするんです。この会でも2回だか3回、いろいろと議論をしました。例えばヘリコプターが何であんな上空を飛んで来るんだ。うるさくて防災無線が聞こえないとか、情報の発信がどうも断続的でよくわからなかったとかというのがずっといろいろ出されてきたんですが、そういうものがどうも総括として、きちんと今後の防災に生かしていこうじゃないかというようなことがないんじゃないかという感じがいたします。

私もかつてアメリカの防災事情を視察に行ったことがあるんですが、そこでは役所の担当者が自分のやることというのは、例えば事故が起きたというような訓練をやる場合でも、自分の机の中に自分のやる分だけが入っているというような、そこまで徹底をされています。したがって、今の日本でやられている防災訓練なんかも、そのときに人を集めて会議場に集まって、そして何かやるということだけであって、実は仏つくっても魂が入ってないというような、そんな感じがしてならないわけで、今まであまりこの議論をするつもりはなかったのですが、発電所が動き出すとすれば、やっぱり真剣に防災の問題については考えていく必要があるんじゃないか。それにはこの地域の会での議論もやっぱり生かしていただきたいということを今日は申し上げたいと思います。

◎新野議長

一応、委員さん全員終わられましたでしょうか。大体予定どおりで、小道具のおかげかと思いますが、全員が発言していただいて。

プルサーマルとか高経年化とかという単語が出てきましたけれど、私たちの会が丸7年活動しているんですが、最初の趣旨で2、3年非常な激論の時代を過ごしてきました。その後少し前を見て進めるかなといったあたりでアンケート調査しましたところ、やはり委員がプルサーマルとか高経年化というのは無視できない課題であるので、とにかく勉強しなきゃならないということで、勉強課題に上がっていったんです。順次どういう勉強をしていこうかという矢先に地震に見舞われてしまって、今ちょっと空白になってしまって、本来は私どもには荷の重い地盤なんていう新しい課題が生まれてきました。

今またアンケートを取りましても、やはり地盤の問題とか高経年化はもっとしっかり知りたいというような要望が強いので、新年度はそういうものと、やはり原子力政策をもう少ししっかり学ぶべきではないだろうかということと、東京電力さんの構内で行われている仕事が、本来私たちが本当に知っているのだろうかというようなところがありますので、そういうことを少しずつ教えをいただきながら、住民がどういうふうにしていくのかということのをこれから進めていこうかとは思っています。一応、本来はそういう

経過で、中身の議論もそうあるべきところが、まだ今されていないんです。

私個人としますと、オブザーバーの方がいつも黙ってお座りいただいているんですが、この会の本質のほとんどの、要するに動く力ですよね。私たちは物を言うだけの立場で、それを何かに行動というか、動きに移すことができるのはオブザーバーの方にしかできないことなんです。じっと座っていただいているのが大変なことだろうと思うんですが、それをいろんな形で今までも私どものこの場でない、それぞれのお立場のところで表現してくださっていたのだろうと思うんですが。

このオブザーバーの中か委員の中でもいいんですが、今また直接顔を合わせるということがすばらしいことだというふうに体験を重ねてますと、もう少し欲を言うならば、これは個人的な願望ですけど、実際、東京電力さんというのは飛行機を操縦する係の方で、飛行機をつくった方じゃないんですよ。当事者と顔を合わせるということがいかに重要かというのを学んでいるんですが、そうすると飛行機をつくられたメーカーの方と直接お話をしてみたいなという願望があります。これは変な意味でなく、直接顔を合わせると非常な心が通じ合うことができるということを通じて学んできているので、ぜひそういう体験を重ねてみたいという延長ですよ。それと東京電力さんとかの構内で働く社員の方もそうですけれど、協力企業の方とか、その孫請けとか、そういう形でどなたでもいいんですが、作業される方たちともお話をしてみたいという気持ちがあります。

もう一つ、これはきっと難しいことなので、オフレコなのかなと思うんですが、メディアの方たちはある意味、またすごい経験者なんですね。こういうのをずっと黙って聞いてらして、ご自分の中で構築されたのを記事にしたりいろんな情報にされているので、私どもと直接話すということは今の関係ではあり得ないのかもしれませんが、オフレコでもいいから一度、そういう経験を重ねた方たちと私どもとお話ができたらなという、今言った三つの期待を抱いているんですが、次にはこちらのゲストの方たちにそういう思いを汲んでいただいて、またメッセージいただきますので、引き続きお願いいたします。

では最初に黒木審議官からお願いいたします。お座りになっていただいて結構でございますので、よろしくお願いいたします。

◎黒木審議官（原子力安全・保安院）

原子力安全・保安院、審議官の黒木でございます。この会にはいろいろと私ども、情報の提供や市民に対するPRが足りないということで、この会を利用していろいろと提供する機会をいただいて、大変感謝しているところでございます。

私どもとしては、中越沖地震が起きて2年半というわけでございますが、この1年間、地震以後、一つ一つ課題に取り組んできたと思っておりますが、継続的にやらないといけないいろんなことの一つとして、新しい地震に関する知見、これをしっかり集中して、それを安全の規制なりチェックに反映していくということが極めて重要だというふうに考えて対応したところでございます。

昨年、そういう知見を集中して国のチェックに反映する仕組みというのを作りまして、先ほど少しお話が出ました原子力安全基盤機構など、それから事業者から情報を収集し、それを公の場で評価をするというような仕組みをつくったわけでございます。これと合わせて、そういう科学的な知見を収集するということがまた重要であり、先ほど

お話がございました耐震拠点を新潟工科大学に設置をして、この地域に関する情報の収集のみでなく、オールジャパンの耐震安全に資する研究をやっていただくということで対応してきたわけがございます。

あわせて先ほど少しお話がありましたように、日本だけではなくて国際的な対応が重要だということで、IAEAとの協力ということで、2回目になります。3月にまたシンポジウムを開催させていただきますし、IAEAと協力して開催したいと思っておりますし、またそのIAEAの国際基準の中にも先般の地震で教訓として得られた断層モデルなどの新しい知見をまた、国際的にもまたフィードバックしていくという活動を行っているところでございます。

それでは、最初に地震の話から入りましたので、耐震拠点のご質問がございました。これは市からの要請もあり、かつまた私ども保安院も耐震に関します最新の知見ということを集めることは重要だということをおっしゃっていたところにそういう市からの要望がございまして、それで新潟工科大学に耐震拠点をつくろうということで話が進んできたところでございます。

私ども国のほうでは原子力安全基盤機構、JNESというところが中心となって実施してございます。これは保安院が指導監督する独立行政法人でございまして、私どもが予算要求をし、事業について実施状況も評価するという立場にございます。JNESに相談をいたしまして新潟工科大学、それから東電にも声をかけて三者が中心となって工科大学にそういう耐震拠点をつくりましょうということで事業を進めさせていただきました。その内容等広報が足りないということでございますので、私どもは早速JNESとも相談して、どういう形でよりPRができるか検討したいと思っております。

ちなみに実施することは、JNESが中心になって実施するのは主に4項目でございまして、簡単に言うと、一つは3,000メートル級のボーリングをして地層の状況を調べ、また地震計を設置するということが1点。2点目が、こういう地震計で得たデータについて防災科学技術研究所をはじめとする日本全体の地震ネットワークの中にデータを供給するということが3点目。3点目が、耐震裕度などの研究を実施するということが4点目。これは今回のIAEAのシンポもそうでございますが、情報発信拠点にすべく国際シンポジウムの開催などに力を入れていこうということが活動の内容でございまして、こういう点について、より積極的に情報を発信すべく努力したいと思っております。

また、原子力防災についても幾つかお話がございました。その原子力防災は専門的な部分が極めて多いということで、JCOの事故の後、原子力災害対策特別措置法ができて、国も指導、助言、指示等を実施するようという形に、より前に出た形になったところでございます。その先ほどのお話は、避難、それから屋内退避など、かなり地方自治体を中心となることについてのご指摘がございましたが、私どもその点についても国の防災計画、それから新潟県、市、村が中心となる防災訓練などを通じて、少しずついいものにしていきたいというふうに考えております。

複合災害についてのご指摘でございますが、複合災害はこの場でもご議論にあったかと思っておりますが、完璧な形で対応するのはなかなか非常に難しい問題であろうかと思っております。国の防災、私ども原子力安全・保安院の専門の部会でも議論はしてございまして、その議論とタイアップする形で新潟県のほうで、我が国では初めて複合災害を踏ま

えた地域の防災計画というものを策定されたところでございます。この点については少しずつ一步一步いいものにしていくべく対応していくということは基本であろうと考えております。いずれにしろ、原子力防災はまずは我々安全規制当局は起こさないように全力を挙げると。仮に起きた場合ということを考えて、実効性のあるものになるよう努めていきたいというふうに考えております。

それから、先般の中越沖地震の際に原子力災害があたかもあったような報道なりがなされたのが大変残念だということでございます。この点については、私どもも反省しないといけない点があると思うておりまして、まずそういう風評被害的なことが起きないようにするためには、速報性、早く国民に知らせるという点。それから2点目として、それがわかりやすいものでなければならないということだと思っています。できるだけマスコミなどを通じて実態がわかるように、規制当局の立場から情報発信をできるだけ早くするとともに、なかなか難しいんですけれども、専門的な言葉が原子力、どうしても出てくるのですが、それが一般の人にわかるように、例えを使うなり、比較に工夫するなり、いろいろと考えながら対応を図っていくということに努めていきたいと思っています。

それから、全般的な話として安全性に関する情報について、継続的な透明性、それから情報発信に努めるべきであるというお話がございました。その点については、当然、私どもしっかりと安全規制をしつつ、その規制の情報、説明責任をしっかりと果たすべく情報の提供に十分配慮する必要があるかとは考えております。先ほどお話がありましたように、なかなかこの会において説明を聞いてもわかりづらいというお話がありました。私どもは毎回わかりやすいようにというふうに工夫はしているところでございますが、この会に限らず、国から情報を出すときに専門的な問題をどう国民や市民にもわかるように伝達できるのかということを考えながら、毎回留意しているつもりではございますが、一層の努力が必要であろうというふうに思った次第でございます。

そのほか事故、故障について、設計、施工、運転に関する品質管理等が重要ではないかというお話などにつきましては、そのとおりでございますので、その点については主に私どもは地元の保安検査官事務所、毎回所長が出席しておりますが、東京電力でまず品質保証を適切にやると、そういう規制の枠組みにはなっておりますので、それがきちっと実施されているというチェックを地元の事務所が中心となってチェックを行っていくという積み重ねが重要であろうと思っています。いずれにいたしましても、安全性のチェックということについては、先ほどお話ししましたように、最新の知見ということを常に留意しつつ対応していきたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

◎新野議長

ありがとうございました。では続きまして、資源エネルギー庁の杉本室長さん。昨年11月に引き続いて2度目にお会いしますね。

◎杉本原子力発電立地対策・広報室長（資源エネルギー庁）

資源エネルギー庁原子力発電立地対策・広報室の杉本でございます。今、会長さんからご紹介いただいたとおり、昨年11月には私のほうの室がやっております座談会をこちらの地域の会の方々に参加していただき、開かせていただきました。いろいろと私

も地域の会、参加させていただいたのは初めてでしたけれども、その際、非常にいろいろと厳しくもまた非常に有意義なご意見、いろいろと多々いただきまして、その節は本当にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

私の所属するこの立地広報室というのは、立地されている自治体関係の方々とのいろいろな施策上の調整というものをやるとともに、また一方で広報室ということで、広報・広聴活動、こういうものをまたやっております。そしてまた、その広報活動、PR活動という中では、シンポジウムとか説明会、先ほど関口さんのほうからはそのような一方的なものではなくという厳しいご指摘もあって、耳が痛いところではありましたが、ただ、これもだから必要ないというわけではなく、重要なツールというふうにはもちろん考えております。またそれだけではなく、いろいろな新聞や雑誌、また広報誌、またメディア、いろいろなそういった多様なメディアを通じた広報というものをやりながら原子力に関する、あるいは核燃料サイクルに関する国民あるいは住民の方々の理解というものをいかにしたら促進できるかということ日々考えております。

特にそうした中で説明会や座談会というのは、説明会ではなくて、特にこの前地域の会の方とさせていただいたような座談会のようなものというのは一つ、双方向なものとしてこちらも非常に重視しているものですが、そういった中でもちょっといろいろとこの辺は私見になりますけれども、個人的にも思うところとして、座談会やシンポジウムとかというのはある意味、参加される方というのは逆に意識が高い方というのは非常にお話しして思うこともあります。一方で、そういうところに参加されない多くの方、いわゆるサイレントマジョリティというのかもしれないけれども、そういった方々に対する広報、これがやはりいろいろなトラブル情報とか何かあったときにそればかりが目について、そして不安とは思いますが、国もあるいは事業者のほうも、それに対する広報ではないですね。情報公開というのをいろいろやっているつもりではありますけれども、どうしても目につくのはそういったものが多くなってしまった結果、やっぱりサイレントマジョリティの方々というのが、漠とした不安を持ってしまうということがやはりこの原子力の関係では難しいところではないかなと。

そしてそこをいかにしたら、克服というのは難しいんでしょうけれども、できるか、もちろんお金がじゃぶじゃぶあって、マンパワーがいっぱいあって、それでテレビでばんばんPRすれば、目につけばいいんでしょうけれども、我々国のほうももちろん限られた税金、皆さんからいただいた税金でより効率的に効果的な広報というのをやらないといけない中で、そんなテレビばかりやっているわけには、新聞とか、そういうものばかりやっているわけでは、もちろんない。そうした中で、座談会とか、こういった地道なものというのも非常に一つの大きなツールとしてやっているものです。それがなかなかやはりサイレントマジョリティの方々に、という中ではパイの大きさからすると全然比べものになりませんが、やはりそういったものを通じて、そこの参加していただいた方から発信というか、そういうものをやはりもちろんこちらも期待したいと思いますし、そういう意味ではぜひご協力いただきたいと思いますところですので。そういったところについては、本当こちらにしても日々の悩みというようなことでやってございます。

そして、ちょっとあと半分ぐらいの時間ですけれども、簡単に若干最近の情勢を説明させていただきますと、よく最近、新政権になって原子力の政策についてどうなってい

るんだというようなことを地域の方にいろいろ地方に行くと首長さん初めそういうことを質問されることがいろいろありました。でもこれについては鳩山総理及び直嶋経済産業大臣も、国会の場でそういった質問というのをいろいろ受けることがよくありまして、常々一貫してそこは原子力とかあと核燃料サイクルを含む原子力政策ということについては、安全確保を大前提に国民の理解と信頼を得ながら着実に進めるというふうに明確に答弁していただいておりますし、また12月30日には新成長戦略の基本方針というのを、これは閣議決定したものがありますが、その中でも安全を第一として国民の理解を得ながら原子力利用について着実に取り組むというふうに明言しております。閣議決定ということで、全会、もちろん閣議は一致ですけれども、そういった方針でやっているということでございます。先ほど高橋さんのほうからは国のトップのほうから明確にいろんなことを言って引っ張ってほしいというお言葉もありましたけれども、我々新政権のもとでもそのような形で進めているということでございます。

そしてまた、あと個別的な動きとしては、先ほどから幾つかプルサーマルという言葉が出ましたけれども、我が国、商業用発電炉では第1号として九州電力の玄海3号機、こちらが去年の10月にMOX（モックス）燃料を装荷し、12月2日から営業運転を開始するというので、第1号という動きがございました。また去年12月22日には泊3号機、こちらのほうで建設されていたものが運転開始ということで、それまでは53機の運転体制だったのが、今商業発電炉は54機ということになりました。そしてまたもちろんご当地、柏崎刈羽におかれましては、昨年末に7号機、そして先月には6号機ということで、地震以来止まっていたものが動き出したという動きがあるかというふうに思っております。

若干ご質問いただいたようなところにも触れながらちょっと申し上げると、トリウムに関係を先ほど中沢さん、おっしゃいましたけれども、トリウムに関係については、これは原子力政策大綱を原子力委員会で議論する際にパブリックコメントをやったりしましたけれども、そういったときにも質問があったんですが、それに対する回答のところでは、実際にさまざま議論をした原子力政策大綱に至る議論においても、トリウムについては特に議論がなかったので大綱には記述はされていませんということ。あるいは第4世代原子力システムに関する国際的プログラムという枠組みがあるんですが、それにはトリウム熔融塩炉が候補に挙げられているんですが、実際にトリウムを利用した原子力システムの研究開発を主体的に進めようとする国は、表明したとかというのはあったというふうに先ほどもおっしゃいましたけれども、実際にはないと。ないというか、ウラン資源が乏しく、トリウム資源にめぐまれているインド、こういうものを除くと世界的には意欲的な研究開発は行われていないというのが現状かと思っております。

最後に、先ほど三宮さんのほうから原子力産業の育成とか、あるいは天野さんのほうから日本の原子力技術は世界に誇れるものといったようなお話がございました。まさにそのとおりだと思っております。我が国原子力産業については、これも80年代以後、世界的な原子力の停滞期、原子力の冬の時代と言われますが、そういうような時代がありましたけれども、そういった時代においても我が国においては数機ではありながらも、着実に原子力の建設というのを進めてきました。世界に比べるとですけれども。そしてそういった中で予定どおり工期を守り、予算内というような、いろいろな建設能力とか

実績というものも積み上げてきた中で、今世界的にいろいろ原子力ネットワークと呼ばれる原子力がどんどんいろいろな国が取り込もうと、やろうというふうに行っている中で、こういった日本が培った原子力技術というのは、非常に我が国の財産だというふうに考えておきまして、またこれの原子力技術の輸出というものがまさにこれも世界の原子力を安全にやるための国際貢献ということにも位置づけておるということでございます。

そういったことで、国においても今、国際原子力協力協議会というものを、これは昨年の6月に設立しまして、これは産業界、メーカー、電力さん、そして国のほうからは経済産業省や内閣府、外務省、文科省、こういったこと等々が関係して国際的な原子力協力というのを、技術輸出も含めてどのようにやっていくかというのを検討する枠組みですけれども、こういったものもやって今後もしっかりと対応していくというのが国の方針としてやっていきたいと思っているところでございます。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。では続きまして、飯沼防災局長さん、お願いいたします。

◎飯沼防災局長（新潟県）

新潟県の防災局長をしております飯沼と申します。私はこの会には初めて寄せていただきました。皆様のご熱心なご意見をお聞きしまして、我々の地元に対する説明の仕方がまだまだ不足なんだなというのを強く反省しているところであります。

私もこちらに中越沖地震の後等、何度かお邪魔させていただいておりますけれども、地震の被害もようやく、被害復興も一通りのめどが立ってきたのかなとは思いますが、これから長く原子力発電所と共存していくということで取り組むべき課題は多いのかなと思っております。

その中で、何人かの方々からご指摘いただいたこと、幾つかございましたけれども、例えば原子力防災についてご意見をいただきました。例えば自主防災活動の中で取り組みの仕方について、各集落の中でいろんなお悩みを持っていらっしゃるというふうなこと。住民の方や外部からお越しの方への案内の仕方といった、その現場でのお話もありましたし、また佐藤様からは防災計画、複合災害ということで入れたんだけど、それがまだ平面的なものじゃないかという厳しいご指摘もいただいたところであります。

私どもも中越沖地震の後、原子力発電所の復旧に伴ういろんな議論にかなり力を注がれていたというのは否めないところなのでございますけれども、営業運転に2機が入っているわけでございます。こういう中で万が一事故が発生した際にできるだけ影響を少なくする、人的被害については極力縮減するというふうなことを考えていくというのが私どもの防災としての一つの仕事と思っております。

複合災害について概念を言っておりましたがけれども、ご指摘のとおり、まだ具体的にどういうことを踏まえて動いていくのか。例えば住民の皆さんの避難誘導とかをどうやっていくのかということにつきましては、県が基本的な考え方を整理する必要があると思っておりますけれども、地元の市や村においても避難誘導の計画等をおつくりいただくというふうなことも必要になります。また、皆様からご議論ありましたように、例えば住民の方からのご意見も踏まえて、実際の防災の考え方の整理、あるいは訓練といったものも取り組んでいくべき必要があるのかなと思っておりますので、この地域の会等

の場もお借りしながら肉づけをして、より形のあるものを早急につくっていく必要があると思いますし、その努力をいたす所存でありますので、ぜひご支援をいただければと思っております。

また、防災訓練等につきましても、今年中には一応行政の担当者レベルでもう一度すり合わせ、頭の整理をしてみようと思っておりますし、来年度にはできれば地域の皆様にもご参加いただくような形で取り組んでみたいなと思っておりますので、また形をつくりながらご支援をいただければ、ご参加をいただければと思っているところであります。

それから、いろいろ情報の伝え方についてご議論、ご指摘がありました。透明性を確保するということが私どもいろいろ情報を伝えることに努力してきたつもりであります。ただ、さまざまなご関心の向きがあります。非常に深く専門的・高度なことを突き詰めてご関心をお持ちの方もいらっしゃる一方で、ご指摘のありましたように同じ県内にあってもなかなか関心さえ持っていただけないという方もいらっしゃる。私どもとしてはもちろんその両方について関心を持っていただきつつ、専門的なことについてきちんと、あるいは説明するということが必要なわけなのであります。新野会長からもありましたように、非常にコミュニケーションの取り方というのは難しいなと思います。このように面と向かってお話させていただくことができるということは、一つ双方の理解に役立つことだと思っておりますので、このような形も重要かと思っております。

また、どうしても専門的なことにつきましては口で言うだけではわかりづらいというのがありますので、新聞広告等も打ってまいりました。ただなかなかそれが十分行き届いていたかと言うと、ご批判もいただく部分もあるかと思っております。また、県の技術委員会というものを設けております。議論につきましては公開を原則としてやっておりますし、傍聴された方も多いかと思います。運営のあり方についてご指摘もありましたけれども、技術委員会としては意見の取りまとめにつきましては、全委員の方のご了解をいただいて取りまとめたものというふうに承知しております。私どもがその経過ですとか、結果について説明の仕方がまだまだ不足なのではないかというご指摘は甘んじて受けなければだめだと思っておりますけれども、議論については皆様のご意見を取りまとめられたものというふうに理解しているところであります。

それから、東京電力さんの安全品質管理等に関しましていろいろご指摘をいただいております。これは県としても当然ながら事業者の方が主体的に取り組んでいただけるものと思っておりますけれども、引き続きしっかりとした取り組みをお願いしたいと思っております。立地ご地元の不安が少しでも芽生えることのないよう、ぜひお取り組みをいただきたいと思っております。

あと、産業育成のようなお話もありました。私、防災局長でありますので、産業振興の部門ではございませんけれども、新潟県も機械金属産業等を中心に非常に集積の進んでいる地域であります。すぐに原子力発電所の技術に結びつくかどうかはわかりませんが、さまざまな技術育成支援に取り組んでいるところでございますので、そういう部門のところで力を加えながらご地元の企業が自力を高められて、今後の経済活動、生産活動に生かしていただけるような仕組みを工夫できないのか、担当の部署ともよく話をしてみたいなと思っております。

取りとめない話でございますが、以上で終わらせていただきます。

◎新野議長

ありがとうございます。お待たせしました。柏崎市長の会田さん、お願いします。

◎会田市長（柏崎市）

会田でございます。この会は1年に1回ですよ。1年ぶりに寄せていただいているわけですが、今ほどもそれぞれの委員の皆さんからのお話、意見を伺って、大変参考になったというか、興味深いという言い方をするとちょっと語弊があるかもしれませんが、いろいろとなるほどなと思いつつお聞きをしておりました。

いつも私、年1回なのであれなのですけれど、この会にいつもここに座らせられると言うとまずいですね。座って、お話をさせていただくんですが、どうもしりのあたりがもぞもぞすると言いますか、針のむしろとまでは言いませんが、なかなか座り心地がよろしくないという感じがしております。ちょっと茶化した言い方ではないのですけれども、結局今も皆さんのご意見ありましたが、私、この地域の会の皆さんのご意見もそうではありますが、柏崎市民の原子力発電所に対する考え方、見方、これは実に多様だというふうに思っておるところであります。したがって、市民の代表である市長として、この原子力発電所の、もちろん安全性の問題、あるいは地域振興、いろんな課題があるわけですが、これをどのようにかじ取りをしていくのかということ、なかなか難しいと言いますか、方向を見定めながらいくということについては、いろいろとよく考えなければいけないというふうに思いつつ、いろいろと判断をしてきているところあります。それが一つであります。

もう一つは、今ほどもいろいろお話出ておりますが、この原子力発電所、何といても巨大プラントでありますし、非常に専門性の高い技術の集積のプラントと言ってもいいと思うわけでありまして、今回の地震、あるいは平常時でもこの安全性の確保という点でも、これまでも地震以降も、専門家の皆さんが議論をされて、専門家の中でもいろんな意見が出るわけですが、そういった中でももちろんこの事業者である東京電力さんを初め、国のほうでもこの安全性の確保、確認について、しっかりやっていたというふうに思っておりますが、しかし住民の、市民の代表である首長として、それが果たして適正なのかどうか。安全性がきちんと保たれているのかどうか。このことを判断するのはかなり至難の技だというふうに思っています。そういう両面からなかなかここで皆さんのお話を伺い、何かしゃべれと言われても、決して無責任な言い方をしているつもりはないのですけれども、難しいということだけ、率直にまず申し上げておきたいというふうに思っております。

それはそれといたしまして、先ほどからもご意見出ておりますし、これはここにおられる方はもちろん、全市民、まずは発電所が安全であるということが大前提であるということは論を待たないというふうに思っております。この防災計画の話も出ておりましたけれども、この原子力発電所と隣り合わせで生活をしている私ども市民、いつ何時、事故と言いますか、何が起こるか分からないというこういう不安と言いますか、そういう気持ちを持っておられる方も多数おられて、先ほどもそういうお話があったわけがあります。万一のときにどうするんだと。今もお話もございましたが、原子力防災計画、この一般の災害の場合にも避難所と、最寄りの安全な公共施設に避難をしてくださいと。

さきの地震でも皆さん経験されたところでありまして、この原子力災害の場合は、まずは退避をして、次に避難をとという構造になっておりまして、このコンクリートの最寄りの鉄筋コンクリートの公共施設に退避をして、しかるべく後に発電所から10キロより離れた公共施設に避難をすると、こういう体系になっておるわけでありまして、詳しいことはあれですけども。その計画について、さっき複合災害についての見直しということもございましたが、この魂が入っていないんじゃないかと。これはつくっている私どももこれで十分だというふうには必ずしも思っていないわけでありまして、いかにしてこれを多面的にと言いますか、内実のあるものにしていくかということ、これからもしっかりやっていかなければいけないというふうに思っておりますし、それから何といたしても、この計画そのものが、今もお話ありますように、市民の皆さん、住民の皆さんに伝わっていないと言いますか、いざとなったらどうなるんだというのが、やはり多くの方々の疑問だというふうに思いますので、その点でもまだ周知が足りないだろうと。その点も、これは訓練等も含めてしっかり市民の皆さんにそのことを知っていただく、いざというときに備えていただく必要があるかなというふうに思っておりますので、これはこれでいいということはないのだろうと思います。

ただ、先ほども、これもお話ありましたが、何といたしてもそのような事故と言いますか、災害が起こらないことが一番でありますので、そういった原子力発電所の安全性をいかに確保していくかということが一番大事なことであります。地震以降、東京電力さんのほうで施設の調査、点検、あるいは必要な補強等も行われて、国のほうでもそれをしっかり見てきていただいている、私が見ている、いろいろ先ほどから疑問、いろんなまだ課題があるというお話もございまして、それはそうかもしれませんが、相当頑張っただけでやっておられるなというふうには思いますが、しかしこう言っただけでは何ですが、やはり思いがけないと言いますか、人知を超える事態が起こらないとも限らない。ですからそれが原子力防災計画、いざというときにどうするかということの備えももちろん必要だということになるわけです。しかし事故を起こさないように、事業者としてしっかりやっただけで必要があります。

この地震によって例えばこれまでの基準地震動をはるかに上回る想定は3倍とか2.5倍とかいろんな数字がありますが、地震動が起こって、発電所に影響がなかったのかと。あるいは本当に大丈夫なのかという、これが今までも点検されてきておりますが、どうも私もいろいろ専門家のお話も含め、事業者あるいは国のご説明を伺っても、まだ解明できていない部分が随分あるんじゃないかなというふうにも受け取っているわけでありまして。活断層の問題もそうでありまして、この建物の、あるいは施設設備の耐震安全性について、どうして、今のところ壊滅的な大きな損傷はないわけですので、その点ではよかったですと思っておりますが、なぜそのような想定される地震動をはるかに上回る地震であったにもかかわらずそうなのかと。耐震裕度があったからですか、いろいろご説明をいただいておりますが、実はあまりしっかりとまだどうもわかっていない部分があるようだと。

したがって、新たな知見、こういったものをこれからも原子力発電所の安全性の確保にしっかりと生かしていただくということも、国にはお願いをしているわけでありまして、あわせて先ほど黒木審議官からもご説明がありましたけれども、あれだけの中越沖

地震の経験をした柏崎、まさに柏崎刈羽原子力発電所の立地地点で、この原子力発電所の耐震安全性等、あるいは地震観測網の整備、こういったことをしっかりやっていただきたいと。それも地元で国の研究機能、研究機関を整備をしていただきたいと、こういうお願いをしてきたわけでありまして、そのことに対してさっきもお話でしたが、国のほうでしっかり応えていただいたというふうに思っておりますので、私はこの分野ではこの研究拠点が世界の最先端の機能、役割を果たすものであるのではないかと、いうふうに期待もしているわけでありまして、そういったことも含めて、この柏崎刈羽の原子力発電所が、世界でも一番安全な発電所であるということにしていきたいなど、このように思っているところでございます。

それから、柏崎市、刈羽村のお話も出ましたが、この安全性の確認について、事前に同意、与えたのは拙速な判断だったのではないかと、というご意見もございましたが、これについては私は今、ちょっといろいろ申し上げたのを含めて、必ずしもそうは思っておりませんで、東京電力での作業、そして国がこれをチェックをし、そしてさらに県の技術委員会で、これは言ってみれば地元の自治体、地元の立場で、その視点で改めてチェックをする、評価をする機関というふうに私ども考えておりますが、その場でも安全性の確認がされたということであれば、それ以上、果たしてどうかという判断を先に送ることはできないだろうというふうに思っているところでございますので、これからはとにかく安全第一でございまして、安全性の確認を大前提にしながら、安全が確認された号機から運転再開を認めていくということで、適正な対応、判断をしていきたいなど、こう思っております。

あと一言だけ申し上げますが、この原発に絡んでの企業の育成というお話もございまして、原子力発電所の活性化協議会でしたか。この活動もあるというのは承知をしておりますが、例えば今回の柏崎のフロンティアパークに東芝の新型二次電池の量産工場が進出をする決定をしたというのも、東芝さん自身が、もちろん原子力発電所ということで柏崎市とも縁があるわけでありまして、あとはやはり電源立地地域としての電力料金が安いということが大きな要因として柏崎市に立地をするということを決めていただいたわけでありまして、直接原子力発電所の関係ではないかもしれませんが、そういった関係も含めて、いろんな関連する企業への波及ということは、これからはその効果を期待したいなど、こう思っているところでございます。

以上でございます。

◎新野議長

ありがとうございました。では品田村長さん、お願いいたします。

◎品田村長（刈羽村）

皆さんこんばんは。ラーメンがのびないうちに移動できるように、簡潔にしゃべりたいと思います。

今日午前中に実は北陸農政局、金沢市にありますけれども、そこに行って納税についていろんな話を、お願いやらしてきました。土地改良の予算が六十数%カットされてしまう新年度予算になります。そういう話をすると百姓は大変だなと皆さん思われると思いますが、日本中の百姓が大変なんです。これは百姓が大変なのではなくて、食糧が危ないです。というふうに私は思います。食糧が不安だという人はあまりこの国にはいな

いと思いますけれども、これはそういう現実をよく理解しないと云いますか、考え方の相違で、私は非常に不安になります。食糧がなくなるとどうなるかと言うと、ハイチで大地震がありました。20万人以上が亡くなったと政府が発表していますが、1月30日に救援物資を積んだ列車が武装集団に襲撃されたんだそうです。それぐらい地震という大災害は気の毒だと思いますが、国情が安定しない。危ないですよ。こういう不安が我が国には、神戸の震災等々、我々も2度も被災しましたがけれども、そういったことが続いても、そんなに危ないことにはならんぞという確たる安心があるんだろうというふうに私は思っています。

原子力が安全であればそれでいいわけではありません。食糧がなかったら大変です。あれがあってこれがあって、これらの安全は確保できても、働く場所がない、お金が稼げない、子どもが病気になっても医者によれない、そんな世の中になったら安心して暮らすことはできない。大げさに言うと政府はそういう暮らしの安心というものを国民が持てるようにする責任があるんだと思います。ご発言の中で高橋武委員と武本委員が、言葉はちょっと違うかもしれませんが、政府の姿勢が明解でないというふうにおっしゃられたと思います。武本委員は誰が一体許可しているんだ、誰が決めるんだということですが、最終的に責任を持つのは私は日本国政府だというふうに思いますが、政府の姿勢が、例えば国防ですね。エネルギー、食糧、こういったものについて明解なもの示してほしいと思いますが、政権が変わっても前政権と同じように、私は明解な戦略というものは示されていないと思います。これは声を大にして言いたいことですし、そうしないと政府がしっかりとした姿勢を示さないと我々は安心ができないという、そんな気がしています。

政府は何やっているんだということの一つに、UAEに原発商売がありましたよね、仏、韓、日、アメリカも頑張ったんでしょ。400億ドル、90円換算で3兆6,000億、それを韓国にさっと取られてしまった。何をしているんだという思いを私は非常にしました。もったいないとか稼ぎたいとかということではなくて、さっき原子力関連の産業云々という話もありました。まさにこういうことを通じて産業だとか技術を我が国のものにして国民の安定に資するような政策が展開されなかったら、まことに不満で残念だなどという気がしたところでありました。

それと、川口委員の報道の対応への誤りについて、県も、市も、村もというお話をされましたが、本来誤りを正すべき、それは違うでしょうと言うべきは事業者だと私は思っています。ただ、この社会環境の中で事業者が堂々と大きな声で主張しづらい、そういう社会環境があるのではないかというふうに思っています。我々はこの原子力に関してはよく理解が深いわけですから、そういう社会であってはならないと思いますので、言うべきは堂々と主張して何の問題もないという社会をつくっていく、我々には使命があるというふうに思っています。決して雄弁になるように頑張ってもらいたいという話でもありませんけれど、雄弁になるかならないかは事業者サイドで頑張ればいい話であります。社会環境を堂々と発言ができるような環境をつくっていくべき、これは我々住民の責務だというふうに考えています。

それから、安全かどうかという議論もあろうかと思いますが、科学的な根拠に基づいて出た判断を私は政治がゆがめるようなことをしてはならんというふうに思っています。

から、科学的な判断として安全だということを示されたら、それは安全なんだと私は思います。ただ、その科学的な根拠が間違っているかどうかという話になると、これはもう学術的な世界で、我々が雰囲気や好き嫌いで判断できる話では決してありませんから、その辺の私の言葉で言えば、科学と政治は癒着をしてはならんということだと思います。科学が寄り添ってほしいのは宗教とか哲学とかというところですよ。またそれがこの社会の我々の政治との仲立ちをしてくれるのだというふうに思っております。さっき市長も答えられましたけれども、同意は拙速だったというご意見もありましたが、私はそういったことについてはそのように考えているところであります。

それから、最後に新野会長さん、いいご発言なされたと思いますが、いろんなここで議論されることを実行に移す、移せるのはこちら側の行政サイドしかないということでしたが、私は皆さんにも実行に移す能力というのは実はあると思うんです。ただ、結論を出さなければならない。結論を出す責任を負えるか、そしてその結論についての責任も負えるかということ、やはり我々はプロですから、仕事でやっていますので、そういったところが負うべきだとは思いますが、皆さんのご活躍も決して小さいものではないというふうに私は思っています。

それとメーカーの人たちだとか作業員、それとメディアの皆さんともディスカッションをしたいというお話をされました。今日もメーカートップの方も傍聴に来られていますし、もちろん毎度毎度メディアの皆さんもこうやって議論を聞かれているわけですから、そういう可能性と言いますか、可能性というよりもそういったことはもう大いにやっていただきたいなというふうに思います。そうやって何が見えるかということ、コミュニケーションが深まるということだと思います。我々が安心するために、唯一安心するための手段というのはコミュニケーションを深めること。相手をよく知り、敵ではないということ。敵ではないということをよく知って安心するための私は唯一の手段だと思っておりますので、我々がお手伝い、支援ができることがあったら、コミュニケーションを深めるという目的に沿って大いにご活躍をいただきたいなというふうに思いました。以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。最後に、随分お待たせしました。高橋所長さん。

◎高橋所長（東京電力）

今日は本店より原子力・立地本部副本部長の武藤常務が出席させていただいておりますので、最初にちょっとごあいさつさせていただきたいと思っております。

◎武藤常務（東京電力）

東京電力の武藤でございます。地域の会の皆様方には発足以来、発電所の透明性確保につきまして、さまざまな活動に取り組んで来られましたこと、それから私どもの事業運営につきまして、いろいろ有益なご意見、ご指導をいただいておりますことをまずは深く御礼を申し上げたいというふうに思います。

先ほどご報告しましたとおり、7号に続きまして6号につきましても営業運転を再開させていただいたわけですが、この間、皆様方には大変に多くのご支援、ご指導をちょうだいいたしました。重ねて御礼を申し上げたいというふうに思います。引き続き安全第一で運転をしてまいりたいというふうに思います。また、他の号機につ

きましても、復旧に向けた作業が続くわけでございますけれども、これも安全第一で一つ一つ積み重ねてまいりたいと思うわけでございます。

議論を聞かせていただきまして、改めて感じることでございますけれども、透明性をどう確保するのか、その透明性確保というのは我々発電所の事業運営の基本と言いますか、大変に重要な課題なのだろうなというふうを感じるわけでございます。発電所で起きていることをきちんと公表させていただいて、あるいは我々がいろいろな取り組みをやっているわけですが、そうした取り組みをわかりやすくお伝えをしていただくということが皆様方のご信頼をいただく大前提なのだろうというふうに思うわけでありまして、また我々にとっても透明性を確保していくということは、社内はもちろん、協力企業の方々と一緒になって発電所の現場の品質をよくしていく上で大変に重要なことなのだろうというふうを感じるわけでございます。

この地域の会には毎回本店からも誰か参加をさせていただいているわけでありまして、今日も安全の確保であるとか、あるいは安心、信頼、あるいは情報発信、あるいは地域の皆様方との関係であるとか、あるいは原子力の価値だとか、我々の事業の進め方につきまして大変に活発なご意見をちょうだいしたわけございまして、こういったようなご意見、ご指導等につきましては、我々社内でしっかりと共有をいたしまして、地域の皆様方の視点に立った事業運営に努めてまいりたいというふうに思うわけでございます。

引き続き積極的に情報公開、わかりやすい説明に心がけていきたいというふうに思いますけれども、今日、市長さん、村長さんから、世界という話をいただいたわけございまして、我々も世界で最も安全な、世界から評価される原子力発電所をつくってきたいというふうに思うわけでございます。どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。

◎高橋所長（東京電力）

それでは、所長の高橋でございますが、まず今日もそうですけれども、私どもの発電所の運営、あるいは安全性について貴重なご意見、ご指摘を多数いただいております、感謝申し上げます。また今、武藤のほうから話がありましたように、昨年末に7号機が、また年明けまして6号機が営業運転をすることができまして、重ねて皆さんにお礼を申し上げます。

これからの我々の仕事は大きく二つございまして、一つは運転再開したプラントを安全を第一にしっかり運転していくというのが一つです。それからもう一つは、残る号機を着実に安全管理を徹底して復興していくと、この二つをこれから取り組んでいくということになります。

残る号機が今どうなっているのかということでございまして、1号機と5号機が機器レベルの点検を終わりました。耐震強化工事も終わりました、系統レベルの試験を行っていたわけですが、それぞれ燃料装荷前にするべき系統の確認試験は終わっております、現在燃料を入れての系統試験の確認を実施していると、そんな状況にあります。また、残りの2、3、4号機につきましては、まだ機器レベルの点検、あるいは耐震強化工事などを進めているという状況でございます。

それで、幾つかお話しさせていただいて、我々も大きな反省点があるわけですが、一番の地

震当時の反省は、これは対外的な対応としての反省でございますが、実は火災が起こって周りの人たちが原子力の災害というように受けとめていたにもかかわらず、我々は延焼の心配もないし、安全上重要な設備もないということで、そういうことに思いを至らず、現場の情報把握であるとか、冷却ということに集中していたということでございまして、その辺は大きな反省でございます。

そういった反省の中で、情報発信が十分できなかつた。特に刈羽村への情報発信が大分遅れてしまったというような反省がございまして、免震重要棟と、免震構造の緊急時対策室をもって、それから情報発信手段の重要な設備をそこに収納するという設備をつくってきたわけですが、これが1月15日から運用を開始しております。ぜひ皆さんにも機会を見て皆さんでご覧いただきたいと、こう思っています。

それから、工事管理のトラブルが多いではないかというご指摘がございまして、この場でも私は何度も皆さんにお詫び申し上げてきました。火災の問題、人災の問題でございます。これは私どもは協力企業と一体となって取り組むということでございまして、今は専門の先生方にもご指導いただきながら、協力企業の方々と一緒にご指導いただきながら、さらなる安全の向上に向けて取り組んでいるところでございますので、また機会がありましたらまた紹介させていただきたいと、こう思っております。

それから、いろんなご指摘があったので、この発電所、柏崎刈羽原子力発電所がどんな発電所かということをご紹介させていただきたいと思いますが、まず規模から言えば世界で一番大きい、原子力の中で一番大きい発電所でございます。それで、この発電所は東京電力管内、関東地方ですが、供給力の2割近い電力を賄ってきたということでございます。

先ほどCO₂を一番出しているのは東京電力だと、こういうご指摘がございまして、僕は1番かどうかはちょっと知りませんが、きっとたくさん出しているだろうというふうに思います。この発電所が1年間とまっておりますと、日本全体のCO₂の放出レベルが2%ぐらい上がると、そのぐらいの大きな発電所でございます。

先ほどちょっと品田村長から食糧の話が出ましたが、食糧の需給率が4割弱ぐらいですか。そこに対してエネルギーは1割をいっていないわけですし、そういう意味では日本のエネルギーというのは脆弱だろうと、こう思います。2年前のちょうど1月だったと思いますが、石油工業連盟が未開発の石油資源を開発してもあと68年だったか67年だったか、そのぐらいで枯渇するというレポートを出していますが、そのうちCO₂の観点だけでなく、そういうエネルギーのセキュリティの観点からも注目されるのだろうというふうに思っております。

それから、トリウムの燃料のお話がございまして、これは勉強不足なので、一度我々もしっかり勉強してご紹介させていただこうと思います。ただ私、若いときにいろんな原子炉を調べる仕事をちょっとしてまして、理論上はすばらしい原子炉ってたくさんあるんですけど、実際にやろうと思うと周辺技術の成熟というのがなされていないと、なかなか実際には電力の発電所としては使えないということがあります。そういった意味では、世界の今主流が軽水炉でございますので、今の段階ではそういった意味では一番成熟した、周辺技術の成熟した原子炉は軽水炉だと思っております。これからもさらにまた成熟していけると、こんなふうに思っております。

それから、地域との関係でございまして、三宮さんのほうからお話がありまして、実は我々は商工会などを通じて、3月にもまた交流会などをやらせていただくのですが、工業のほうの方々との連携をもうちょっと強められないかというのは、実は今日もちょっとそんな話をしてございまして、まだ東芝さん、日立さんにも話していませんが、東芝さん、日立さんにも入っていただいて、そういう場が設けられないかというようなこともちょっと話していたところございまして、何かいい知恵がありましたら教えていただければと思っております。

それから、何と言いましても、情報公開の問題が大切だと思います。安全安心という言葉がございましたが、安心というのはなかなか難しい問題ではございますが、まず何といても透明性がないと安心できないだろうと思います。加えて、きっと私を含めて、所員一人が人間として信頼できないとなかなか安心できないだろうと思いますので、私は決して品行方正ではないんですが、気をつけて皆さんに信頼されるように頑張りたいと思っております。

情報公開については、地震以降、我々は何よりもとにかく現場を直接見ていただくという活動をしてきまして、実は昨年未まで3万人を超える人までは数えていたんですが、ちょっと最近数えるのをやめちゃいましたけれども、見てきたと。そのほかにいろんなニュースアトムであるとか、ラジオ番組だとかいろいろ工夫はしているんですが、何といてもわかりやすく説明するという工夫をもっともっていきたいと思っております。またこの辺につきまして皆さんからご意見を賜ればと思っております。また、新野議長からありました、いろんな方からお話を聞きたいということで、私どもがお力になれることがありましたら何でも言っていただければと思います。

最後になりますけれども、こうしたこういう場でいただいた意見を我々、業務運営にしっかり反映していきたいと思っております。これからは災害に強い世界に誇れる発電所というのを今キャッチフレーズに取り組みしておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

◎新野議長

ありがとうございました。少し時間が残ったら委員さんとディスカッションと思っておりますが、ちょっと厳しい時間ですので、何かありましたらまた次の機会を上手に使っていただければと思います。

私ども、何か高い低いで申し上げれば、本来はみんな対等の関係が本当のコミュニケーションが深まる間柄だと思うんです。何か透明性を確保するとか、監視するとかと言われちゃうと、何か東京電力さんとはどういう関係なんだろうと皆さん疑問に思われると思うんですが、もうそろそろ多分、対等の関係で言いたいことが本当に素直に言い合えるという感じになってきて、いずれは本当は東京電力さんから要望なんかを、こんなふうなことに協力してくれたとか。これっていろんな住民の知恵を絞るという意味です。そういうような関係にいずれなることが本当は、それで私たちがまた言いたいことが言えるというような関係にまで持っていくのが本当のコミュニケーションかと思っておりますので、まだまだ努力が足りませんし、時間が必要かと思うんですが、また皆さんに協力いただいて、何とかここが住民の方たちにも少しは安心を担保できるような機関の一つでありたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日は遅くまでありがとうございました。

◎事務局

それでは大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。以上をもちまして第80回定例会を終了させていただきます。大変ご苦勞様でございました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20：40閉会・・・・・・・・・・・・・・・・